I-O DATA

CI-ICN

取扱説明書

ダミー表紙付

株式会社 アイ・オー・データ機器

72303-02

1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2) 本サポートソフトウェアに含まれる著作権等の知的財産権は、お客様に移転されません。
3) 本サポートソフトウェアのソースコードについては、如何なる場合もお客様に開示、使用許諾を致しません。また、ソースコードを解明するために本ソフトウェアを解析し、逆アセンブルや、逆コンパイル、またはその他のリバースエンジニアリングを禁止します。
4) 書面による事前承諾を得ずに、本サポートソフトウェアをタイムシェアリング、リース、レンタル、販売、移転、サブライセンスすることを禁止します。
5) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器、兵器システムなどの人命に関る設備や機器、及び海底中継器、宇宙衛星などの高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用又はこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
6) 本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
7) 本サポートソフトウェアの使用にあたっては、バックアップ保有の目的に限り、各1部だけ複写できるものとします。
8) お客様は、本サポートソフトウェアを一時に1台のパソコンにおいてのみ使用することができます。
9) お客様は、本製品または、その使用権を第三者に再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません。
10) 弊社は、お客様が【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。
11) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
12) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当する場合があります。
国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
13) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。

- I-O DATAは、株式会社アイ・オー・データ機器の登録商標です。
- i・CONNECTおよびi・CONNECTのロゴは、株式会社アイ・オー・データ機器の商標です。
- Microsoft,Windows,Windows NT,MS,MS-DOSは、米国 Microsoft Corporationの登録商標です。
- その他、一般に会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

もくじ

もくじ i
必ずお守りください iii
お読みになる前に vii

はじめに 1

箱の中には 2
動作環境 3
使用上の注意 6
サポートソフトの予備を作ろう 7
各部の名称・機能 8
モードを設定しよう 9
お使いのOSは? 13

Windows XP/2000/Me/98/95でお使いの場合 15

使えるようにしよう 16
確認しよう 24
基本操作について 28

Windows NT 4.0でお使いの場合 33

使えるようにしよう 34
確認しよう 38

参考１　フォーマット方法について 40
参考２　MOディスクの交換について 41
参考３　RESEDIT 43

Windows 3.1およびMS-DOS(PC DOS)でお使いの場合 ... 45

使えるようにしよう 46

参考１　ハードディスクをフォーマットする場合 49
参考２　MOディスクをフォーマットする場合 55
参考３　CONFIG.SYSの例 57
参考４　添付ドライバの詳細 59

**付録・・・

必ずお守りください

ここでは、お使いになる方への危害、財産への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくための注意事項を記載しています。
ご使用の際には、必ず記載事項をお守りください。

■警告及び注意表示

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人体に多大な損傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性又は物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

■絵記号の意味



この記号は注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例） 「発火注意」を表す絵表示



この記号は禁止の行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例） 「分解禁止」を表す絵表示



この記号は必ず行っていただきたい行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例） 「電源プラグを抜く」を表す絵表示

⚠ 警告


厳守

本製品を使用する場合は、ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意表示を厳守してください。


厳守

指定のACアダプタ以外は使用しないでください。

必ず指定のACアダプタをご使用ください。


分解禁止

本製品を分解したり、改造しないでください。

火災・感電・動作不良の原因になります。

修理は弊社修理センターにご依頼ください。分解したり、改造した場合、保証期間内であっても有料修理となる場合があります。


電源プラグを抜く

煙が出たり、変な臭いや音がしたら、すぐに使用を中止してください。

電源がある場合は、電源を切ってコンセントから電源プラグを抜いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因になります。


発火注意

本製品を取り付ける場合は、必ず本書で接続方法をご確認になり、以下のことにご注意ください。

- 接続ケーブルなどの部品は、必ず添付品または指定品をご使用ください。故障や動作不良の原因になります。
- 接続するコネクタやケーブルを間違えると、パソコン本体やケーブルからの発煙や、火災の原因になります。


電源プラグを抜く

本製品の取り付け、取り外し、移動の際は、必ずパソコン本体・周辺機器および本製品の電源を切り、ACコンセントを外してから行ってください。（USBおよびPCカード製品は除く）

電源コードをACコンセントに接続したまま行うと、感電および故障の原因になります。


禁止

本体を濡らしたり、お風呂場では使用しないでください。

火災・感電の原因になります。お風呂場、雨天、降雪中、海岸、水辺でのご使用は、特にご注意ください。

⚠ 注意


厳守

本製品のコネクタ部分や部品面には直接手を触れないでください。

静電気が流れ、部品が破壊されるおそれがあります。
また、静電気は衣服や人体からも発生するため、本製品の取り付け・取り外しは、スチールキャビネットなどの金属製のものに触れて、静電気を逃がした後で行ってください。


注意

本製品を使用中にデータなどが消失した場合でも、データなどの保証は一切いたしかねます。

故障に備えて定期的にバックアップをお取りください。


禁止

本製品は以下のような場所（環境）で使用または保管しないでください。

故障の原因になることがあります。

- ●振動や衝撃の加わる場所
- ●直射日光のあたる場所
- ●湿気やホコリが多い場所
- ●温度・湿度差の激しい場所
- ●熱の発生する物の近く（ストーブ、ヒータなど）
- ●強い磁力電波の発生する物の近く
  （磁石、ディスプレイ、スピーカ、ラジオ、無線機など）
- ●水気の多い場所（台所、浴室など）
- ●傾いた場所
- ●本製品に通風孔がある場合は、その通風孔をふさぐような場所での使用（保管は通風孔をふさぐようにしてください。）
- ●腐食性ガス雰囲気中（Cl_2、H_2S、NH_3、SO_2、NO_Xなど）
- ●静電気の影響の強い場所
- ●保温性・保湿性の高い（ジュータン・カーペット・スポンジ・ダンボール箱・発泡スチロールなど）場所での使用（保管は構いません。）


禁止

本製品は精密部品です。以下のことにご注意ください。

●落としたり、衝撃を加えない（特に電源がONになっているときは絶対に振動や衝撃を加えない）

●本製品の上に水などの液体や、クリップなどの小部品を置かない

●重いものを上にのせない

●本製品のそばで飲食・喫煙などをしない


注意

本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器、兵器システムなどの人命に関わる設備や機器、および海底中継器、宇宙衛星などの高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用、またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。

これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。

設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。

お読みになる前に

このたびは、本製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用の前に本書をよくお読みいただき、正しいお取り扱いをお願いします。

● 呼び方

呼び方	意　味
本製品	CI-iCN
ドライブ	i・CONNECT搭載ドライブ
Windows XP	Microsoft® Windows® XP Home Edition Operating System, Microsoft® Windows® XP Professional Operating System
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional Operating System
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating System
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Operating System, Microsoft® Windows® 98 Second Edition Operating Systemの総称
Windows 95	Microsoft® Windows® 95 Operating System
Windows NT 4.0	Microsoft® Windows NT® Workstation Version 4.0 Operating System
Windows 3.1	Microsoft® Windows® 3.1 Operating System
Windows XP/2000/Me/98/95	Windows XP, Windows 2000,Windows Me,Windows 98,Windows 95の総称
Windows Me/98/95	Windows Me,Windows 98,Windows 95の総称
Windows	Windows XP/2000/Me/98/95,Windows NT 4.0,Windows 3.1の総称

● マークの説明



注意
本製品を使う上で注意すべきことが書かれています。



参考
本製品を使う上で役に立つことが書かれています。



参照
参照していただきたいページが書かれています。

Memo

はじめに

箱の中には

箱の中のものを確認します。
2ページ

▼

動作環境

本製品を使うことができるパソコン環境を説明します。
3ページ

▼

使用上の注意

本製品を使うにあたって、注意しなければならないことを説明します。
6ページ

▼

サポートソフトの予備を作ろう

サポートソフトの予備の作り方を説明します。
7ページ

▼

各部の名称・機能

コネクタの名前と機能を説明します。
8ページ

▼

モードを設定しよう

本製品のモードの設定方法について説明します。
9ページ

▼

お使いのOSは？

お使いのOSに合ったページを案内します。
13ページ

箱の中には

箱の中のものを確認します。

☐にチェックをつけながら、ご確認ください。

万が一不足品がございましたら、弊社サポートセンター（141ページ参照）までご連絡ください。

参考

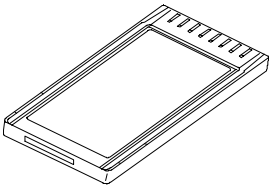
箱・梱包材は

大切に保管し、修理などで輸送の際にお使いください。

イラストについて

実物と若干異なる場合があります。

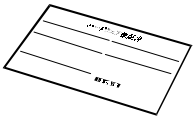
☐ **PCカード [CI-iCN]**



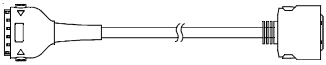
☐ **CI-iCNサポートソフト**



☐ **ハードウェア保証書（1枚）**



☐ **専用接続ケーブル**



☑ **取扱説明書(本書：１冊)**

ユーザー登録とサポートソフトのダウンロードについて

▼ここにシリアル番号をメモしてください。

シリアル番号は本製品の裏面に貼られているシールに印字されている12桁のものです。（ 例： ABC12345678ZX ）

シリアル番号は、ユーザー登録の際に必要です。

また、弊社ホームページよりサポートソフトをダウンロードする際にも必要な場合があります。

●ユーザー登録　⇒http://www.iodata.jp/regist/

●サポートソフトのダウンロード⇒http://www.iodata.jp/lib/

動作環境

本製品を使うことができるパソコン環境を説明します。

対応機種および対応OS

注意

1) 以下は本製品の動作環境です。i・CONNECT搭載ドライブを接続した場合の動作環境は、さらに制限がつきます。詳しくは5ページ以降をご覧ください。
2) 本製品は日本語版のOSにのみ対応しています。
3) 本製品を同時に複数枚取り付けて使用することはできません。
また、本製品とCBIDEⅡシリーズを同時に取り付けて使用することはできません。
複数枚取り付けた場合の使用については、保証いたしかねます。

●PC98-NXシリーズ※1およびDOS/Vマシン※2でお使いになる場合

※1 mobio NXシリーズでは、CardBusモードで使用できません。
※2 CPUが、i386SX以上であること。
弊社では、OADG加盟メーカーのDOS/Vマシンで動作確認を行っています。

本製品のモード（CardBus、16bit）によって使用できるOSが異なります。
以下をご確認ください。（モードについては次ページ【参考】参照）

CardBusモード※3	16bitモード※4
Windows XP Windows 2000 Windows Me Windows 98(Second Editionを含む) Windows 95 OSR 2以降(バージョン4.00.950 B,4.00.950 C)	Windows XP Windows 2000 W Windows Me Windows 98(Second Editionを含む) Windows 95 Windows NT 4.0※5 Windows 3.1※5※6および MS-DOS(PC DOS)※5※6 [Ver6.2/V(J6.1/V)以降]

※3 PCカード規格TypeⅡ準拠のCardBusスロット(32bit)を装備していること。
※4 PCカード規格TypeⅡ準拠のCardBusスロット(32bit)またはPCカードスロット(16bit)を装備していること。
※5 DOS/Vマシンのみ。
また、Windows 3.1,MS-DOS(PC DOS)環境では、PCカードドライバ(ソケットサービス／カードサービス[リリース2.0以上])が必要です。DOS/Vマシンの場合は、標準でPCカードドライバが添付されていない場合があります。各パソコンメーカーにお問い合わせください。

●PC-9821シリーズでお使いになる場合

本製品のモード（CardBus、16bit）によって使用できるOSが異なります。
以下をご確認ください。（モードについては以下の【参考】参照）

CardBusモード※3	16bitモード※4
Windows 2000, Windows 98(Second Editionを含む) Windows 95 OSR 2以降(バージョン 4.00.950 B,4.00.950 C)	Windows 2000 Windows 98(Second Editionを含む)※5 Windows 95※5 Windows NT 4.0 Windows 3.1※6およびMS-DOS※6 [Ver6.2以降]

※3 PCカード規格TypeⅡ準拠のCardBusスロット(32bit)を装備していること。
《CardBusモードで使用できる機種》
PC-9821Nr15,Nr150,Nr166,Nr233,Nr266,Nr300,Nw133,Nw150
※4 PCカード規格TypeⅡ準拠のCardBusスロット(32bit)またはPCカードスロット(16bit)を装備していること。
《16bitモードのみでしか使用できない機種》
PC-9821Np,Ns,Nd,Nd2,Ne2,Ne3,Nm,Nf,Nx,Nb7,Nb10,Na7,Na9,Na12,Na13,Na15,
Nr12,Nr13,La7,La10,La13,Ld,Lt,Lt2,Ls12,Ls13,Ls150
※5「98NOTEメニュー」で『16Mバイトシステム空間』の設定が「使用する」になっていないと本製品の性能はフルに発揮できません。詳しくはパソコン本体の取扱説明書を参照してください。
※6 Windows 3.1,MS-DOS(PC DOS)環境では、PCカードドライバ(ソケットサービス／カードサービス[リリース2.0以上])が必要です。詳細はパソコンメーカーにお問い合わせください。



本製品のモードについて

本製品は、CardBusスロット(32bit)とPCカードTypeⅡスロット(16bit)の両方に対応しています。
CardBusスロット(32bit)で使用する場合は、本製品を「CardBusモード」、あるいは「16bitモード」のいずれかでご使用になることができます。
（CardBusモードの方が高速です。）
PCカードTypeⅡスロット(16bit)で使用する場合は、「16bitモード」でのみご使用いただけます。

CardBusモード(32bit)
バスマスタ転送方式採用。CPU占有率の低減と高速転送を行います。

16bitモード(16bit)
UltraSMIT転送方式により、16bitモードにおいても高速転送を行います。

対応i-CONNECT搭載ドライブ

対応i-CONNECT搭載ドライブは常に更新されています

最新情報は下の方法にてご確認ください。

・弊社Webページにある「i-CONNECT対応表」
　http://www.iodata.jp/products/iconnect/sheet.htm

・弊社カタログ

i-CONNECT搭載ドライブは、カタログ・パッケージの「i-CONNECTマーク」が目印です。

●ハードディスク

・最新情報は上記を参照してください。

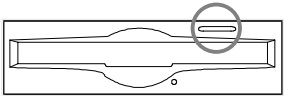
●MOドライブ

・一部のMOドライブはファームウェアのアップデートが必要です。
アップデートについては、弊社ホームページ（http://www.iodata.jp/）から「サポートライブラリ」をご覧ください。

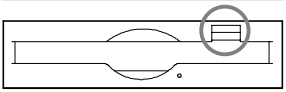
ファームのアップデートが必要なMOドライブ

イジェクトボタンの形で判別できます。

アップデートが必要なタイプ



アップデートが不要なタイプ



●CD-RW/DVDドライブ

・ライティングソフトとして「B's Recorder GOLD」が添付されていた場合は、Ver3.29以降にアップデートすることをおすすめします。
「B's Recorder GOLD5」が添付されていた場合は、Ver5.05以降にアップデートすることをおすすめします。
アップデートについては、株式会社ビー・エイチ・エーのホームページ（http://www.bha.co.jp/）をご覧ください。

使用上の注意

本製品を使うにあたって、注意しなければならないことを説明します。

●使用上の注意

・お使いのパソコンにフロッピーディスクドライブが無い場合

本製品に添付の「CI-iCNサポートソフト」は、弊社ホームページで公開しております。お使いのパソコンにダウンロードしてご利用ください。

インターネット　http://www.iodata.jp/lib/

・本製品と他のPCカードを同時に使用する場合

本製品をCardBusモードで使う場合

- CardBus PCカードは複数同時に使用できない場合があります。
  ⇒本製品を16bitモードに変更するか、本製品を他のCardBus PCカードと同時に使用しないようにしてください。
- 本製品と他の16bit PCカードを同時に挿入してOSを起動すると、OSが起動途中で止まってしまう場合があります。
  ⇒他の16bit PCカードを取り出して、OSを起動し、OS起動後に他の16bit PCカードを挿入してください。

本製品を16bitモードで使う場合

他のCardBus PCカードと同時に挿入した状態でOSを起動すると、OSが起動途中で止まってしまうことがあります。
⇒他のCardBus PCカードを取り出してOSを起動し、OS起動後に他のCardBus PCカードを挿入してください。

・パソコンに本製品を挿入したままパソコンを起動する場合

パソコンに本製品をPCカードスロットに挿入したままパソコンを起動する場合には、必ず本製品に接続した機器の電源を先に入れてからパソコンを起動してください。

●本製品の修理について

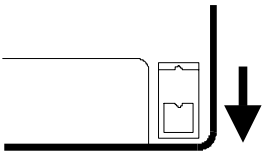
本製品の修理については、【修理について】(142ページ)をご覧ください。

サポートソフトの予備を作ろう

本製品に添付されているフロッピーディスクは必ず予備を作り、予備の方をご使用ください。ここでは、予備の作り方を説明します。（お使いのパソコンにフロッピーディスクドライブが無い場合は読み飛ばしてください。）
※以下の例は、フロッピーディスクドライブがAドライブの場合です。

1　フォーマット済みのフロッピーディスクを１枚用意します。
フロッピーディスクは「3.5インチ2HD：1.44Mバイト」を用意します。

2　サポートソフトを書き込み禁止にし、フロッピーディスクドライブに挿入します。



3　ディスクのコピーを行います。
［マイコンピュータ］の［3.5インチFD］アイコンを右クリックし、表示された［ディスクのコピー］をクリックします。



4　メッセージにしたがって、予備のディスクを作ります。
サポートソフトと空きフロッピーディスクをメッセージにしたがって入れ替えながら、予備のディスクを作ります。

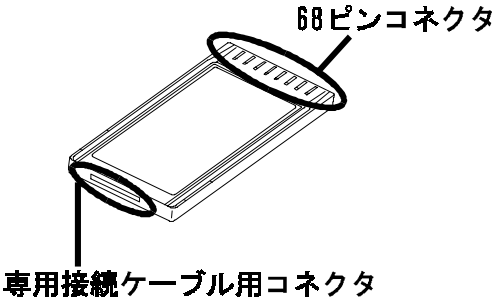
注意

サポートソフトを破損した場合の修理は有料です。
必ず予備のディスクを作り、サポートソフトは大切に保管してください。

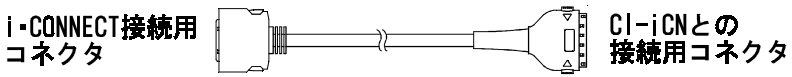
各部の名称・機能

コネクタの名前と機能を説明します。

● 本製品



● 専用接続ケーブル



モードを設定しよう

ここでは本製品の動作モードを設定します。

モードについて

本製品には、**CardBusモード**と**16bitモード**の２つのモードがあります。

CardBusモード	バスマスタ転送方式で32bitデータ高速転送を行います。**16bitモード** よりも高速です。
16bitモード	UltraSMIT転送方式で16bitデータ高速転送を行います。

モード選択について

まず、本製品をどちらのモードで使えるかを確認します。
確認は、パソコンの［デバイスマネージャ］画面の［PCMCIAアダプタ］（または[PCMCIAソケット]）に**【CardBus】**という表示があるかどうかで行います。
［デバイスマネージャ］画面での確認手順は次ページ以降を参照してください。

「CardBus」という記述が ある 場合

CardBusモード で使用できます。本製品のモードは出荷時設定は**CardBusモード**です。そのままで使用できます。

（通常は **CardBusモード** でお使いください。 **16bitモード** でもお使いいただけますが、**CardBusモード** の方がデータ転送が速くなります。）

※Windows 95のバージョン 4.00.950、4.00.950aの場合

（Windows 95のバージョンに関しては11ページをご覧ください。）

CardBusモード で使用できません。 **16bitモード** での使用となります。12ページをご覧になり **16bitモード** に変更してください。

「CardBus」という記述が ない 場合

16bitモード での使用となります。12ページをご覧ください。

●Windows XP/2000の場合

① [マイコンピュータ]アイコンを右クリックし（Windows XPの場合は、[スタート]をクリック後、［マイコンピュータ］を右クリック）、表示された［プロパティ］をクリックします。
② [ハードウェア]タブの[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。
③ [PCMCIAアダプタ]をダブルクリックします。
④ 表示に「CardBus」という、記述があるかどうかを確認します。

▼表示例



⑤ モードを設定してください。

「CardBus」の記述あり → **CardBusモード** に設定（変更必要なし）
「CardBus」の記述なし → **16bitモード** に変更（12ページ参照）

●Windows NT4.0の場合

12ページをご覧になり、設定を **16bitモード** にしてください。
（ **16bitモード** でのみ使用可能です。）

●Windows 3.1およびMS-DOS（PC DOS）の場合

12ページをご覧になり、設定を **16bitモード** にしてください。
（ **16bitモード** でのみ使用可能です。）

●Windows Me/98/95※の場合

※Windows 95のバージョン 4.00.950、4.00.950aの場合は **16bitモード** でご使用ください。
（以下の手順を行う必要はありません。）
バージョンの確認方法は、以下の《Windows 95のバージョンの確認》を参照してください。

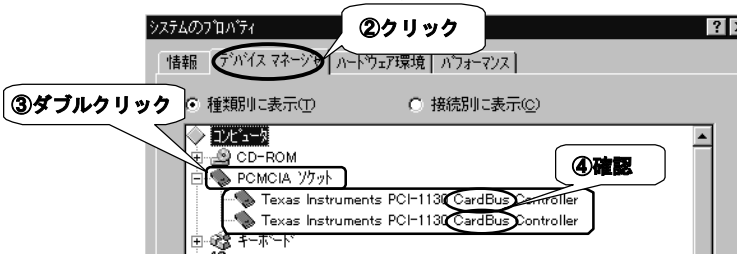
① ［マイコンピュータ］アイコンを右クリックし、表示された［プロパティ］をクリックします。

② ［デバイスマネージャ］タブをクリックします。

③ ［PCMCIAソケット］をダブルクリックします。

④ 表示に「CardBus」という、記述があるかどうかを確認します。

▼表示例



⑤ モードを設定してください。

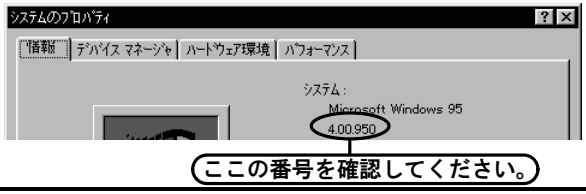
「CardBus」の記述あり → **CardBusモード** に設定（変更必要なし）

「CardBus」の記述なし → **16bitモード** に変更（12ページ参照）

《Windows 95のバージョンの確認》

① ［マイコンピュータ］アイコンを右クリックし、表示された［プロパティ］をクリックします。

② 表示される番号がWindows 95のバージョンです。

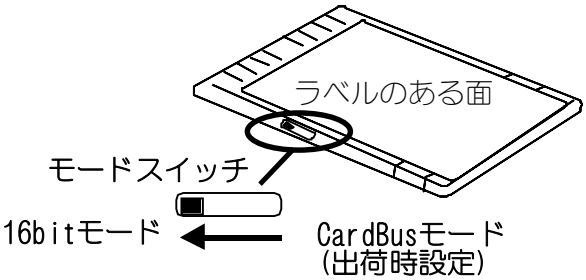


モードの変更について

本製品は、出荷時には**CardBusモード**に設定されています。
使用するモードが**CardBusモード**の場合は、そのままお使いください。
使用するモードが**16bitモード**の場合は、以下のように設定して、お使いください。

16bitモードへの設定方法

本製品側面にあるモードスイッチを変更します。



お使いのOSは？

ここでは、お使いのOSに合った本書のページを案内しています。
お使いのOSに合ったページへお進みください。

CBIDEⅡシリーズをお使いの方へ［Windows 3.1,MS-DOS(PC DOS)を除く］
本製品を使おうと思っているOSで、以前にCBIDEⅡシリーズをお使いになっていた場合は、インストールされているCBIDEⅡシリーズのサポートソフトを削除後、以下の個所を参照して本製品のサポートソフトをインストールしてください。
詳細については、【ドライバの更新】（135ページ）を参照してください。

・Windows XP/2000/Me/98/95
【Windows XP/2000/Me/98/95でお使いの場合】 １５

・Windows NT 4.0
【Windows NT 4.0でお使いの場合】 ３３

・Windows 3.1、MS-DOS（PC DOS）
【Windows 3.1およびMS-DOS(PC DOS)でお使いの場合】 ４５

Memo

Windows XP/2000/Me/98/95でお使いの場合

使えるようにしよう …… １６

本製品を使えるようにします。

確認しよう …… ２４

本製品を使えることを確認します。

基本操作について …… ２８

本製品を使う上での操作について説明します。

使えるようにしよう

はじめて本製品を接続する際の手順について説明します。

接続するドライブについて

本書は、接続するドライブの使用方法などについてはご案内しておりません。ご利用前に、接続するドライブの取扱説明書をよくお読みになり、事前に設定やインストールが必要な場合は済ませた後で本製品に接続を行ってください。

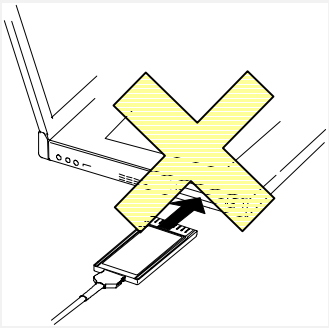
また、最新の対応ドライブの情報については、下の方法にてご確認ください。

・弊社Webページにある「i･CONNECT対応表」
　http://www.iodata.jp/products/iconnect/sheet.htm
・弊社カタログ

本製品を使えるようにする

ここではまだ本製品を挿入しないでください。

以下の作業は、本製品をパソコンに挿入しない状態で行います。本製品との接続は、以下の作業の後（【接続する】19ページ）で行います。



1 パソコンの電源を入れて、Windowsを起動します。

Windows XPの場合は「コンピュータの管理者アカウント」で、Windows 2000の場合はAdministrator権限でログオンしてください。

2 「CI-iCNサポートソフト」ディスクを挿入します。

3 サポートソフト内の［DDSETUP］アイコンをダブルクリックします。

［マイコンピュータ］をダブルクリック（Windows XP の場合は[スタート]→[マイコンピュータ]をクリック）します。

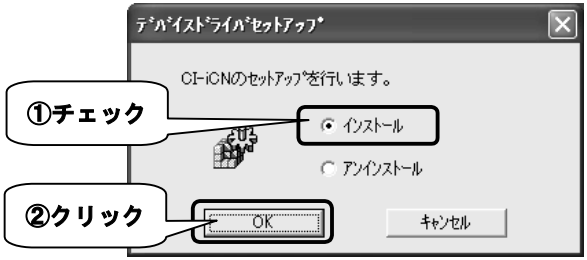
［3.5 インチ FD］→［DDSETUP］の順にダブルクリックします。



※画面は Windows XP を例にしています。



4 ［インストール］を選択し、［OK］ボタンをクリックします。

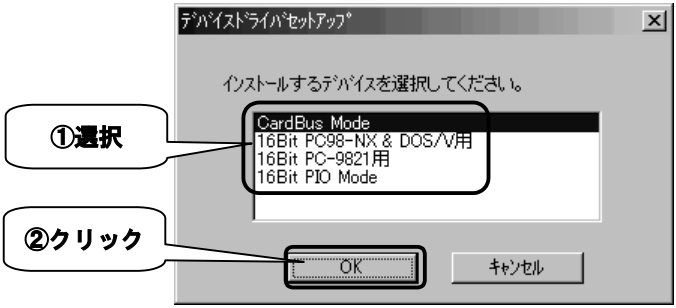


5 *Windows Me/98/95の場合のみ*

以下の画面が表示されます。インストールするデバイスを選択し、［OK］ボタンをクリックします。

ここでは、【モードを設定しよう】(9 ページ)で設定したモードと一致したものを選択してください。

モード	インストールするデバイス
CardBusモード	［CardBus Mode］
16bitモード	**PC98-NXシリーズおよびDOS/Vマシンを使用している** ［16Bit PC98-NX & DOS/V用］ **PC-9821シリーズを使用している** ［16Bit PC-9821用］



注意

はじめてインストールする場合は、**［16Bit PIO Mode］**を選択する必要はありません。**［16Bit PIO Mode］**は上記のモードで動作しない場合に選択します。

6 ［OK］ボタンをクリックします。

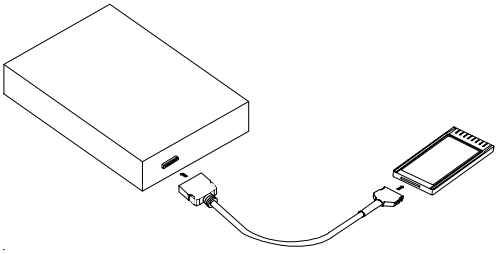


7 サポートソフトをフロッピーディスクドライブから取り出します。

接続する

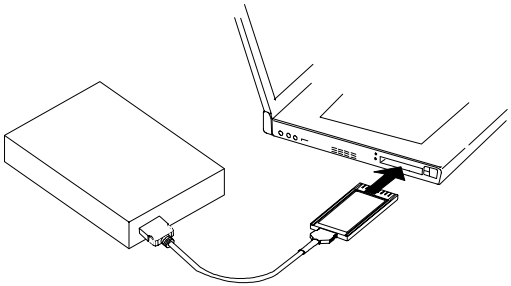
8 ドライブと本製品を接続します。

i･CONNECT対応コネクタの両脇を押さえながら、ドライブにまっすぐに差し込み、軽く引っ張って抜けないことを確認します。



9 ドライブの電源を入れます。

10 Windowsが起動していることを確認後、本製品をPCカードスロットに挿入します。

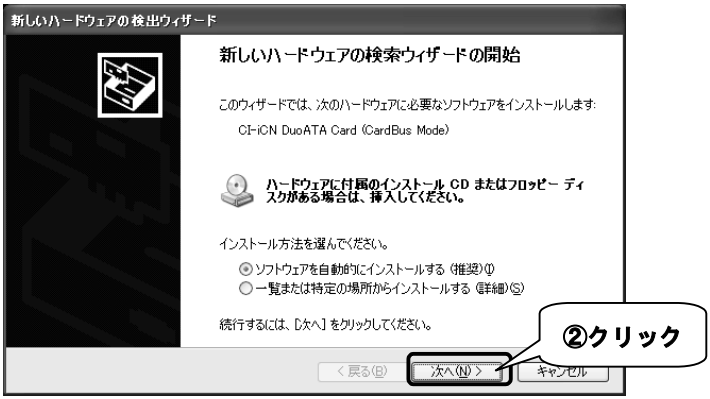


この後、以下の該当ページへお進みください。

- Windows XPの場合 → 【Windows XPの追加作業】(次ページ)
- Windows 2000の場合 → 【Windows 2000の追加作業】(22ページ)
- Windows Me/98/95の場合 → 【Windows Me/98/95の追加作業】(23ページ)

Windows XPの追加作業

1 PCカードスロットに挿入後、以下の画面が表示されます。［次へ］ボタンをクリックします。



この画面が表示されない場合は

→本製品が正しく取り付けられていないことが考えられます。

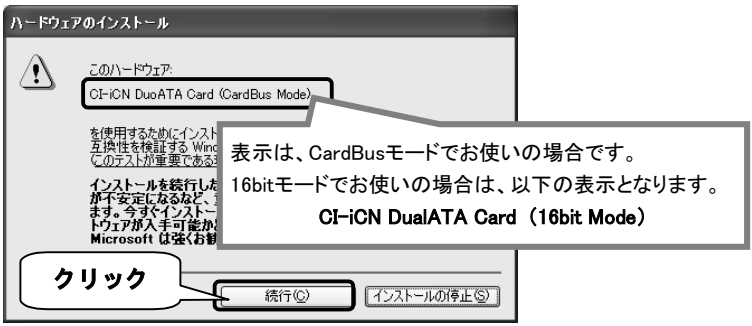
・PCカードスロットに確実に取り付けられていることを再度ご確認ください。

・本PCカードの裏表に間違いがないかご確認ください。

→Windows画面右下に取り出しアイコン が表示された場合は、本PCカードが誤認識されていることが考えられます。

・取り出しアイコンをクリックして、装着したPCカードとは違う名称が表示される場合は【困ったときには】の「接続したドライブのアイコンが表示されない」(73ページ)の個所を参照してください。

2 [続行]ボタンをクリックします。



参考

弊社製ソフトウェアが確認された時点で、マイクロソフトが認証するソフトウェアでは無い旨のメッセージが表示されますが、特に問題ありませんのでそのまま続行します。
→マイクロソフト社は、WHQLという組織においてパソコン本体や周辺機器等を対象に認定手続きを行う予定ですが、このたびお買い求めいただいた製品は現時点では認定を受けておりません。

3 ［完了］ボタンをクリックします。
これで本製品で機器を使用するためのインストール作業は終了です。



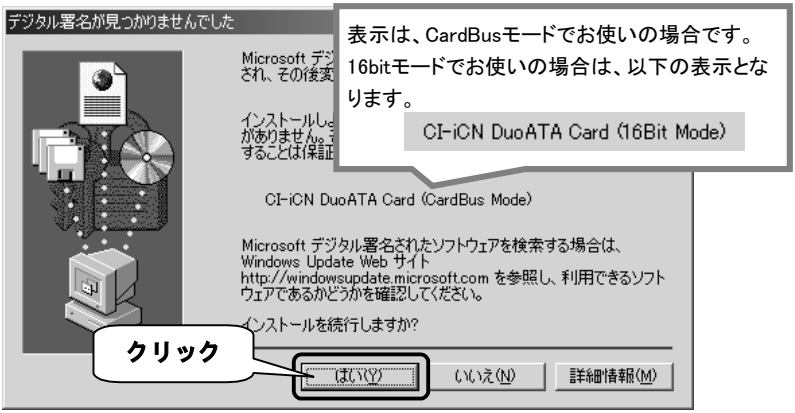
以上で本製品は使えるように設定されました。
24 ページで本製品が使えるかを確認しましょう。

注意

本製品を別のPCカードスロットで使用する場合（CardBusモードのみ）
本製品は、使用するPCカードスロット毎に「CI-iCNサポートソフト」のインストールが必要です。
本製品を、インストール時に挿入していたスロットとは、別のスロットに挿入した場合は、前ページの画面が表示されます。
再度前ページからの手順に従ってインストールしてください。

Windows 2000の追加作業

1 PCカードスロットに挿入後、以下の画面が表示されます。［はい］ボタンをクリックします。



参考

弊社製ソフトウェアが確認された時点で、マイクロソフトが認証するソフトウェアでは無い旨のメッセージが表示されますが、特に問題ありませんのでそのまま続行します。
→マイクロソフト社は、WHQLという組織においてパソコン本体や周辺機器等を対象に認定手続きを行う予定ですが、このたびお買い求めいただいた製品は現時点では認定を受けておりません。

参考

この画面が表示されない場合は
→本製品が正しく取り付けられていないことが考えられます。
・PCカードスロットに確実に取り付けられていることを再度ご確認ください。
・本PCカードの裏表に間違いがないかご確認ください。
→Windows画面右下に取り出しアイコン が表示された場合は、本PCカードが誤認識されていることが考えられます。
・取り出しアイコンをクリックして、装着したPCカードとは違う名称が表示される場合は【困ったときには】の「接続したドライブのアイコンが表示されない」(73ページ)の個所を参照してください。

注意

本製品を別のPCカードスロットで使用する場合（CardBusモードのみ）
本製品は、使用するPCカードスロット毎に「CI-iCNサポートソフト」のインストールが必要です。
本製品を、インストール時に挿入していたスロットとは、別のスロットに挿入した場合は、上記の画面が表示されます。
再度上記手順に従ってインストールしてください。

Windows Me/98/95の追加作業

1 PCカードスロットに挿入後、本製品をお使いいただけます。

「新しいハードウェア」などの画面が表示されたまま消えない場合

対処

①[キャンセル]ボタンをクリックし、一旦本製品をPCカードスロットから取り外します。
②モードスイッチ設定とインストールしたデバイス(18ページ手順**5** で選択したデバイス) が異なっている可能性がありますので、【サポートソフトの削除】(136ページ)をご覧の上、削除した後、モードスイッチを確認した後、再度16ページ以降を参照してインストールし直してください。

Windows 95でMOドライブをお使いの場合で、「MOシリーズサポートソフト」をインストールしていない場合はインストールしてください。

参考

●「MOシリーズサポートソフト」をインストールできない場合

Windows 95でMOドライブをお使いの場合に、MOドライブ添付のサポートソフトから「MOシリーズサポートソフト」をインストールできない場合は、弊社ホームページのサポートライブラリ(htttp://www.iodata.jp/lib/)より以下の手順でダウンロードしてインストールしてください。

① サポートライブラリのMOAシリーズまたはMOFシリーズ製品(例:MOA-AX640SW/CBIDEなど)に添付の「MOシリーズサポートソフト」をダウンロードします。
※Windows 95用のものをダウンロードしてください。
②ダウンロード後、ファイルをダブルクリックして解凍後、解凍されたファイルのSetupファイルをダブルクリックしてください。
③後は画面の指示に従ってインストールしてください。

※「MOシリーズサポートソフト」の使用方法は、Windows Me/98/95共通です。
MOドライブに添付の取扱説明書を参照してください。

確認しよう

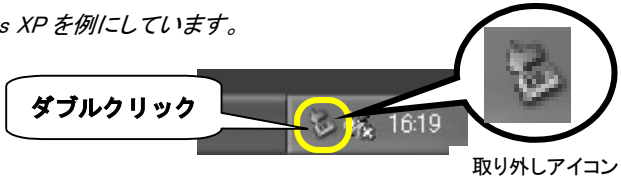
ここでは本製品と接続した機器がWindows XP上で正しく認識されているかどうかを確認します。

1 画面右下（タスクトレイ）の  （取り外しアイコン）を<u>ダブルクリックします</u>。

※取り外しアイコンはご利用の OS によって異なります。



※画面は Windows XP を例にしています。



取り外しアイコンがない場合

対処1	本製品をPCカードスロットから取り外し、機器の接続・電源を確認した上で、もう一度本製品をPCカードスロットに挿入して、再度ご確認ください。
対処2	【サポートソフトの削除】(136ページ)をご覧になり、本製品を削除した後、【使えるようにしよう】(16ページ)をご覧になりインストールを行って、再度ご確認ください。

この後、
Windows XP/2000の場合、次ページへお進みください。
Windows Me/98/95の場合、26ページへお進みください。

Windows XP/2000での確認

1 ［デバイスコンポーネントを表示する］にチェック後、本製品と接続した機器が認識（表示）されていることを確認します。表示されていれば、正常に認識されています。

本製品は「CI-iCN DuoATA Card(xxxxx)」※と表示されます。

※ (xxxxx)には本製品のモードが表示されます。

「CI-iCN DuoATA Card(xxxxx)」の下に接続している機器が表示されます。

表示は接続している機器により異なります。



2 [閉じる]ボタンをクリックします。

［閉じる］ボタンで画面を閉じます。

3 ［マイコンピュータ］にドライブのアイコンが表示されていることを確認します。

［スタート］→［マイコンピュータ］をクリックし、開いた「マイコンピュータ」にアイコンがあることを確認します。

ドライブのアイコンがない

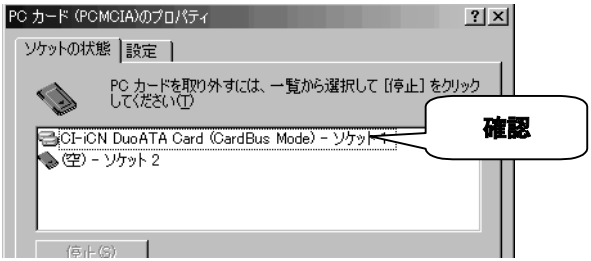
【接続したドライブのアイコンが表示されない】（73ページ）をご覧ください。

Windows Me/98/95での確認

1 本製品が正常に認識されているかを確認します。

「CI-iCN DuoATA Card(xxxxx)」※と表示されているかを確認します。表示されていれば正常に認識されています。

※ (xxxxx)には本製品のモードが表示されます。



「空」と表示される場合

対処1 本製品が認識されていません。
一度抜いてしっかりと挿入します。

対処2 パソコン本体が16bit環境なのに、本製品が「CardBusモード」になっています。「16bitモード」に変更してみてください。

対処3 IBM製 ThinkPadをWindows 95上でお使いの場合は、【IBM製 ThinkPadをお使いで・・・・】(78ページ)を参照してください。

正しくない名前が表示されている場合

対処 【サポートソフトの削除】(136ページ)をご覧になり、ドライバを削除した後、【使えるようにしよう】(16ページ)をやり直してください。

2 ［OK］ボタンをクリックします。

「PC カードのプロパティ」ウィンドウを閉じます。

3 ［マイコンピュータ］にドライブのアイコンが表示されていることを確認します。

［マイコンピュータ］アイコンをダブルクリックし、開いた「マイコンピュータ」にアイコンがあることを確認します。



ドライブのアイコンがない

【接続したドライブのアイコンが表示されない】（73ページ）をご覧ください。

基本操作について

本製品を使う上での操作について説明します。

操作	
ドライブの電源を入れる	本ページ
ドライブの電源を切る	
本製品を接続する	31ページ
本製品を取り外す	

ドライブの電源を入れる

パソコンの電源や本製品が接続されているかどうかに関係なく、いつでもドライブの電源を入れられます。

ドライブの電源を切る

操作	
●パソコン→ドライブの順に電源を切る	本ページ
●パソコンの電源を切らずにドライブの電源を切る	次ページ

●パソコン→ドライブの順に電源を切る

1 ディスクを取り出します。

CD-RW, DVD, MOドライブの場合、中のディスクを取り出します。
詳しくは、ドライブの取扱説明書をご覧ください。

2 Windows を終了し、パソコンの電源を切ります。

3 ドライブの電源を切ります。

●パソコンの電源を切らずにドライブの電源を切る

1 ディスクを取り出します。

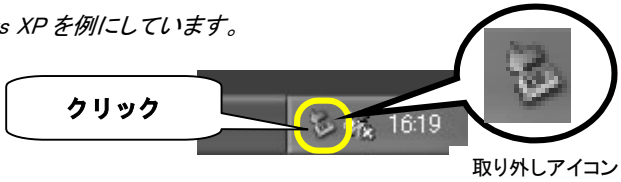
CD-RW, DVD, MOドライブの場合、中のディスクを取り出します。
詳しくは、ドライブの取扱説明書をご覧ください。

2 画面右下（タスクトレイ）の （取り外しアイコン）をクリックします。

※取り外しアイコンはご利用の OS によって異なります。



※画面は Windows XP を例にしています。



取り外しアイコンがない場合

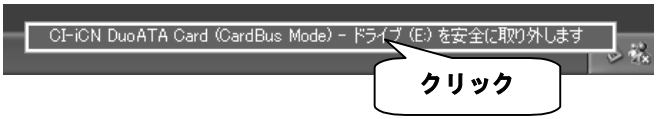
対処 1 本製品をPCカードスロットから取り外し、機器の接続・電源を確認した上で、もう一度本製品をPCカードスロットに挿入して、再度ご確認ください。

対処 2 【サポートソフトの削除】(136ページ)をご覧になり、本製品を削除した後、【使えるようにしよう】(16ページ)をご覧になりインストールを行って、再度ご確認ください。

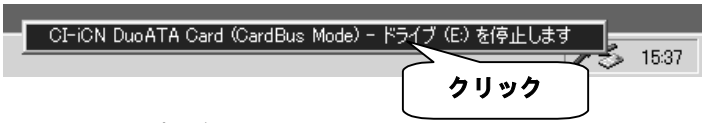
3 表示された[CI-iCN DuoATA …]をクリックします。

表示はご使用の OS によって異なります。また、「…」の部分には、本製品を接続した機器名が表示されます。

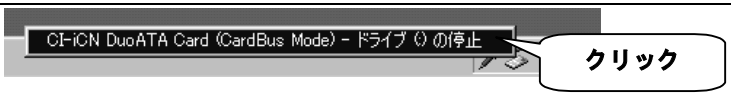
Windows XPでの表示例）



Windows 2000での表示例）



Windows Me/98での表示例）



「取り外しができない」という内容のメッセージが表示された場合

①使っているソフトウェアを全て終了します。

②再度、*1*の手順から行います。

※同じメッセージが表示されたら、【●パソコン→ドライブの順に電源を切る】(28ページ)の手順を行ってください。

4 画面の確認または[OK]ボタンをクリックします。

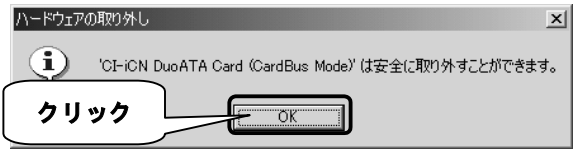
Windows XPでの表示例）

Windows XPでは以下の画面が表示されることを確認します。



Windows 2000/Me/98/95での表示例)

Windows 2000/Me/98/95では、[OK]ボタンをクリックします。



5 本製品をPCカードスロットから取り外します。

6 ドライブの電源を切ります。

本製品を接続する

パソコンの電源を入れていても切っていても、本製品を接続できます。

1 ドライブの電源を入れます。

2 本製品をPCカードスロットに挿入します。

本製品を取り外す

1 本製品をPCカードスロットから取り外します。

操作は、【ドライブの電源を切る】(28ページ)をご覧ください。

2 ドライブの電源を切ります。

Memo

Windows NT 4.0でお使いの場合

使えるようにしよう …… 34

本製品を使えるようにします。

確認しよう …… 38

本製品を使えることを確認します。

参考１　フォーマット方法について …… 40

参考２　MOディスクの交換について …… 41

参考３　RESEDIT …… 43

使えるようにしよう

はじめて本製品を接続する際の手順について説明します。

接続するドライブについて

本書は、接続するドライブの使用方法などについてはご案内しておりません。ご利用前に、接続するドライブの取扱説明書をよくお読みになり、事前に設定やインストールが必要な場合は済ませた後で本製品に接続を行ってください。また、最新の対応ドライブの情報については、下の方法にてご確認ください。

・弊社Webページにある「i･CONNECT対応表」
http://www.iodata.jp/products/iconnect/sheet.htm

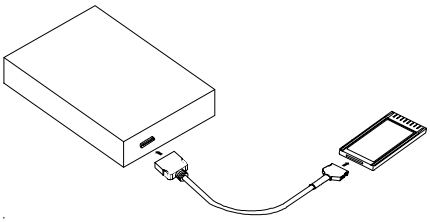
・弊社カタログ

接続する

1 パソコンの電源を切ります。

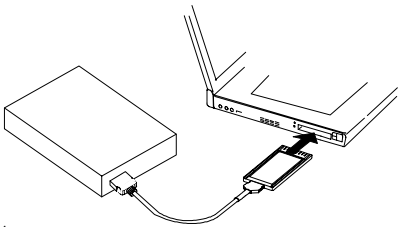
2 本製品が「16bitモード」となっていることを確認後、ドライブに本製品を接続します。

i･CONNECT 対応コネクタの両脇を押さえながら、ドライブにまっすぐに差し込み、軽く引っ張って抜けないことを確認します。



3 ドライブの電源を入れます。

4 本製品を PC カードスロットに挿入します。



本製品を使えるようにする

5 **パソコンの電源を入れ、Windows NT 4.0 に Administrator 権限でログオンします。**

6 **［SCSIアダプタ］アイコンをダブルクリックします。**

［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］内の［SCSI アダプタ］アイコンをダブルクリックします。

7 **［ドライバ］タブ内にある［追加］ボタンをクリックします。**



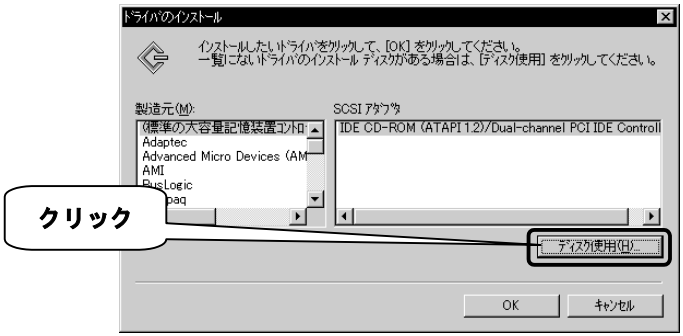
[追加]ボタンをクリックできない場合

対処

インストールの際は、Administrator権限のあるユーザーでログオンしてください。

8 **「CI-iCN サポートソフト」ディスクを挿入します。**

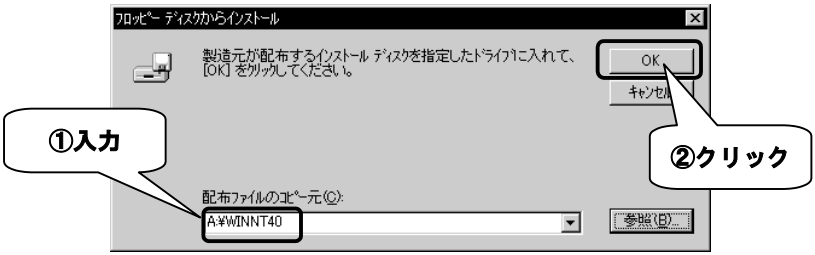
9 **［ディスク使用］ボタンをクリックします。**



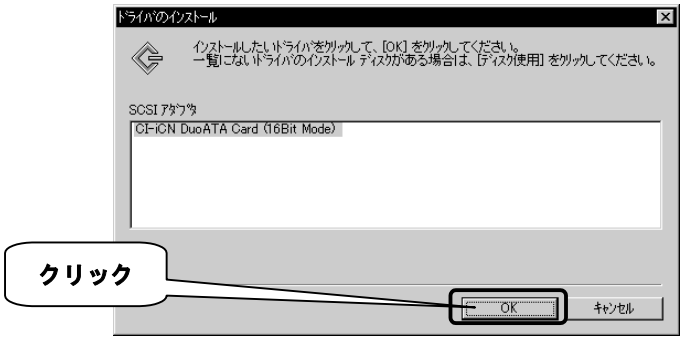
10 「WINNT40」フォルダを入力します。

「配布ファイルのコピー元」に以下を入力し、［OK］ボタンをクリックします。

「A:¥WINNT40」　　（フロッピーディスクドライブがAの場合）



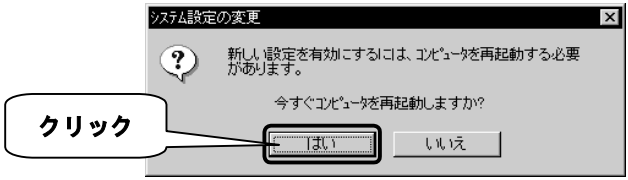
11 ［OK］ボタンをクリックします。



12 終了後に「サポートソフト」ディスクを取り出します。

13 ［はい］ボタンをクリックします。

⇒パソコンが再起動されます。



MOドライブをお使いの場合は、さらに次ページの手順でMOドライブのインストールを行ってください。

MOドライブのインストール

14 Windows NT 4.0でMOドライブをお使いの場合は、「MOシリーズサポートソフト」をインストールしてください。

接続したMOドライブをWindows NT 4.0で使っていた ⇒ インストールする必要はありません。次ページへお進みください。

参考

●「MOシリーズサポートソフト」をインストールできない場合

Windows NT 4.0で、MOドライブ添付のサポートソフトから「MOシリーズサポートソフト」をインストールできない場合は、弊社ホームページのサポートライブラリ（htttp://www.iodata.jp/lib/）より以下の手順でダウンロードしてインストールしてください。

① サポートライブラリのMOAシリーズまたはMOFシリーズ製品（例：MOA-AX640SW/CBIDEなど）に添付の「MOシリーズサポートソフト」をダウンロードします。

※Windows NT 4.0の場合は、Windows 95用の「MOシリーズサポートソフト」をそのままご利用になれますので、Windows 95用のものをダウンロードしてください。

②ダウンロード後、ファイルをダブルクリックして解凍後、解凍されたファイルのSetupファイルをダブルクリックしてください。

③後は画面の指示に従ってインストールしてください。

※「MOシリーズサポートソフト」の使用方法は、Windows Me/98/95と同様です。MOドライブに添付の取扱説明書のWindows Me/98/95の個所を参照してください。

以上で、本製品は使えるようになりました。
次は、本製品が使えるか確認しましょう。

確認しよう

ここでは本製品がWindows NT 4.0上で正しく認識されているかどうかを確認します。

1 「SCSI アダプタ」を開きます。

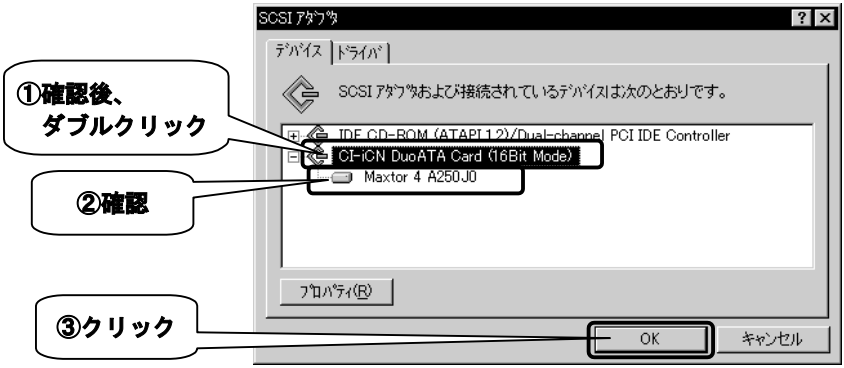
［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］内にある［SCSI アダプタ］アイコンをダブルクリックします。

2 以下を確認します。確認後、［OK］ボタンで画面を閉じます。

①「CI-iCN DuoATA Card(16Bit Mode)」と表示されていることを確認します。

②「CI-iCN DuoATA Card(16Bit Mode)」をダブルクリックし、その下に接続した機器が表示されていることを確認します。

※接続機器の表示は接続している機器により異なります。



「CI-iCN …」が表示されていない場合

対処1 パソコンの電源を切って、本製品と機器の接続を確認します。本製品が「16bitモード」となっていること、また、機器の電源が入っていることを確認し、一度本製品の抜き挿しを行い、再度、パソコンを起動し、上記画面で確認してみてください。

対処2 添付ソフト「RESEDIT」を使ってリソースを変更してみてください。（【参考３】43ページ参照）

接続した機器が表示されていない場合

対処

パソコンの電源を切って、本製品と機器の接続を確認します。本製品が「16bitモード」となっていること、また、機器の電源が入っていることを確認し、一度本製品の抜き挿しを行い、再度、パソコンを起動し、上記画面で確認してみてください。

3 [OK] ボタンをクリックします。

「PC カードのプロパティ」ウィンドウを閉じます。

4 ドライブのアイコンが表示されていることを確認します。

［マイコンピュータ］アイコンをダブルクリックし、開いた「マイコンピュータ」にアイコンがあることを確認します。

参考１　フォーマット方法について

ハードディスクのフォーマット方法

Windows NT 4.0のみでハードディスクを使う場合は、「ディスクアドミニストレータ」を使ってフォーマットしてください。
（使い方は、Windows NT 4.0の取扱説明書を参照してください。）



1. Windows NT 4.0上でハードディスクをフォーマットする場合は、Administrator権限でログオンする必要があります。
2. Windows 98/95で使用していたハードディスクをWindows NT 4.0で使う場合は、Windows 98/95上でASPIFORMの「ディスクデータ消去」を行ってから、Windows NT 4.0の「ディスクアドミニストレータ」を使ってください。
3. Windows NT 4.0以外に他のOSでもハードディスクを共通に使いたい場合は、「ディスクアドミニストレータ」は使用せず、他のOS側でフォーマットしてください。
4. Windows NT 4.0(PC98-NXシリーズおよびDOS/Vマシン)とWindows NT 4.0(PC-9821シリーズ)でハードディスクを共通で使う場合は、Windows NT 4.0(PC98-NXシリーズおよびDOS/Vマシン)に付属のディスクアドミニストレータでフォーマットしたハードディスクを使ってください。
   ※ Windows NT 4.0(PC-9821シリーズ)に付属のディスクアドミニストレータは、Windows NT 4.0(PC98-NXシリーズおよびDOS/Vマシン)に付属のディスクアドミニストレータで作成したハードディスクのパーティションを正常に認識しない場合がありますので、使用しないでください。

MOディスクのフォーマット方法

フォーマットはWindows Me/98/95と同様です。
MOドライブの取扱説明書のWindows Me/98/95でのフォーマット手順の個所を参照してください。

参考２　MOディスクの交換について

Windows NT 4.0でMOディスクを交換した場合、システムが認識できず、交換後のMOディスクの情報が正しく表示されない場合があります。この場合以下の手順でシステムにMOディスクを再認識させる必要があります。

以下の場合は、《MOディスクの再認識手順》を行ってもMOディスクの交換が正しく認識されないことがあります。その場合は、パソコンを再起動してください。
・DOS/VマシンでWindows NT 4.0 ServicePack 3以降を使用している環境で、1300MB/640MB以外(128/230/540MB)のMOディスクと1300MB/640MBのMOディスクを交換した場合。

《MOディスクの再認識手順》

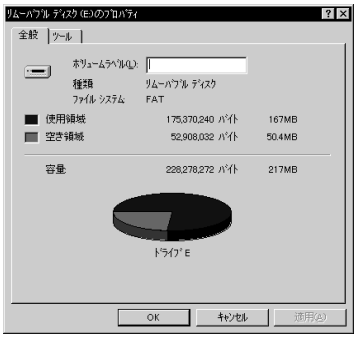
1 右クリックメニュー内の［プロパティ］をクリックします。

［マイコンピュータ］を開き、［リムーバブルディスク］アイコンを右クリックし、表示されるメニューの中から［プロパティ］をクリックしてください。

2 「容量」などが正しく表示されているか確認します。

表示が正しい場合……［OK］ボタンをクリックします。
これで再認識手順は終了です。

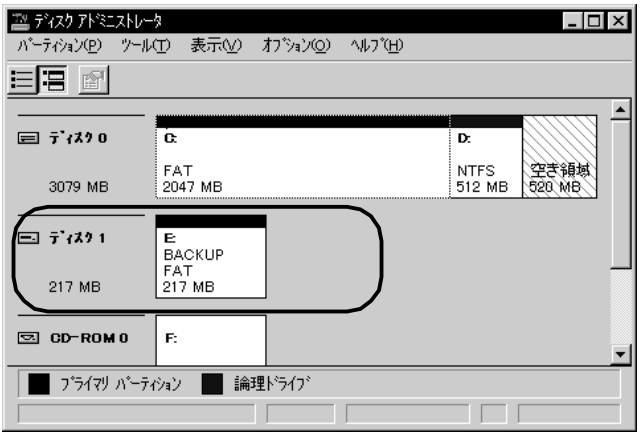
表示が正しくない場合……次へ進んでください。



▲230Mバイト MOディスクの場合

3 「ディスクアドミニストレータ」で確認します。

［スタート］→［管理ツール］→［ディスクアドミニストレータ］を起動し正しく表示されているかを確認します。その後、ディスクアドミニストレータを終了します。



▲230Mバイト MOディスクの場合

この時、ドライブのパーティション部分を右クリックすると、ドライブ名を変更することができます。

4 MOディスクの交換が認識されているかどうかを確認します。

まだMOディスクの交換が正しく認識されていない場合は、Windows NT 4.0を再起動してください。

参考３　RESEDIT

本製品には、リソースの競合を回避するためのWindows NT 4.0専用ユーティリティ「RESEDIT」を添付しています。
（Windows NT 4.0は、非PnPのOSのためリソースが競合する場合があります。）
ご使用のWindows NT 4.0パソコンで本製品と他のデバイスなどとのリソースの競合により、正常にインストールできない場合に「RESEDIT」を使ってリソースを変更してご利用ください。

●RESEDITを使用する時は、Windows NT 4.0にAdministratorでログオンしてください。
Administratorでログオンしていないと、RESEDITが正常に動作しません。
RESEDITによる変更の結果は他の権限でログオンし直した場合にも反映されます。
●RESEDITを起動するときは必ず本製品を挿入した状態で起動してください。
本製品を挿入していないと、リソースの設定欄に値が表示されません。

参考：リソースの確認方法

Windows NT 4.0で本製品に割り当てられたリソースの値を確認する方法は４つあります。

１．ここで説明されている「RESEDIT」
２．［プログラム］→［管理ツール（共通）］→［Windows NT 診断プログラム］→［リソース］タブ
３．［コントロールパネル］→［SCSIアダプタ］→［プロパティ］→［リソース］タブ
４．［コントロールパネル］→［PCカード］→［プロパティ］→［リソース］タブ

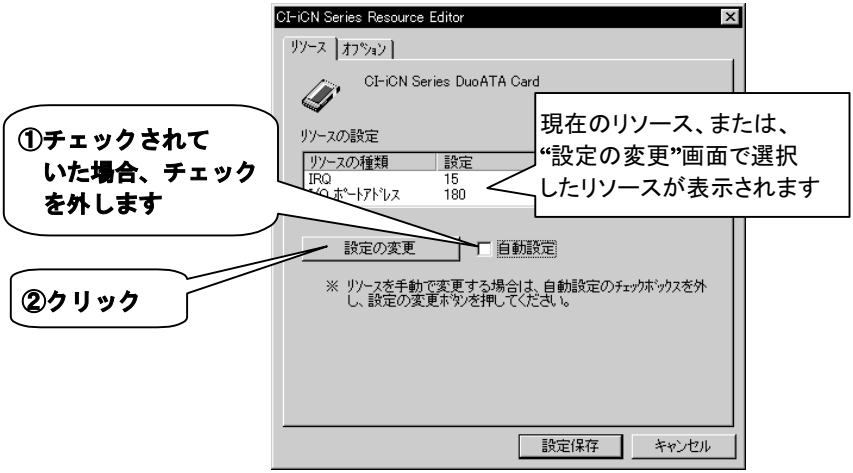
上記の３．４．で表示される値は実際と異なることがあります。
１．２．の方法で確認することをお勧めします。
また、場合によってはCBIDEⅡとして表示されてしまうことがありますが、異常ではありません。

起動方法

「CI-iCNサポートソフト」をフロッピーディスクドライブに入れて、[マイコンピュータ]→[3.5インチFD]→[WINNT40]→[Resedit.exe]を起動してください。

使用方法

● 「リソース」タブ



● “リソースの変更”画面

［設定の変更］ボタンをクリックして、リソース（“IRQ”、“I/Oポートアドレス”）に値を入力できます。

［OK］ボタンで入力した値にリソースを変更できます。

〈リソースの変更方法〉

① ［▼］ボタンをクリックし、“IRQ”と“I/Oポートアドレス”の値を選択します。
② ［OK］ボタンをクリックします。
③ 設定を保存するかどうかを確認する画面が表示されますので、［OK］ボタンをクリックします。
④ 再起動するかどうかを確認する画面が表示されますので、［OK］ボタンをクリックします。

空いているリソースの値はパソコン本体によって異なります。空きリソースの詳細については、パソコンメーカーにお問い合わせください。

● 「オプション」タブ

オプションは使用しません。

Windows 3.1およびMS-DOS（PC DOS）でお使いの場合

使えるようにしよう …… ４６

本製品を使えるようにします。

参考１　ハードディスクをフォーマットする場合 …… ４９

参考２　MOディスクをフォーマットする場合 …… ５５

参考３　CONFIG.SYSの例 …… ５７

参考４　添付ドライバの詳細 …… ５９

使えるようにしよう

はじめて本製品を接続する際の手順について説明します。

接続するドライブについて

本書は、接続するドライブの使用方法などについてはご案内しておりません。ご利用前に、接続するドライブの取扱説明書をよくお読みになり、事前に設定やインストールが必要な場合は済ませた後で本製品に接続を行ってください。

また、最新の対応ドライブの情報については、下の方法にてご確認ください。

・弊社Webページにある「i･CONNECT対応表」
http://www.iodata.jp/products/iconnect/sheet.htm

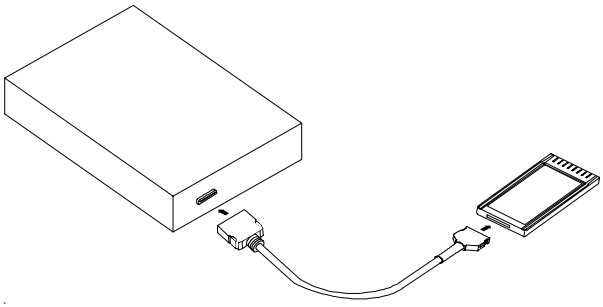
・弊社カタログ

接続する

1 パソコンの電源を切ります。

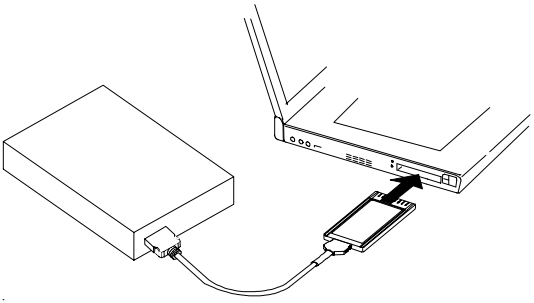
2 本製品が「16bitモード」となっていることを確認後、ドライブに本製品を接続します。

i･CONNECT 対応コネクタの両脇を押さえながら、ドライブにまっすぐに差し込み、軽く引っ張って抜けないことを確認します。



3 ドライブの電源を入れます。

4 本製品をPCカードスロットに挿入します。



本製品を使えるようにする

5 パソコンの電源を入れ、MS-DOS(PC DOS)を起動します。

Windows 3.1が起動した場合は終了します。

6 「CI-iCNサポートソフト」を挿入します。

7 「INSTALL.EXE」を起動します。

以下のように入力し、↵キーを押します。

「A:¥DOS¥INSTALL」　（フロッピーディスクドライブがAの場合）

```
C:¥>A:¥DOS¥INSTALL
```

8 ↵キーを押します。

注意

カードサービスに関するエラーが表示された場合は、【カードサービスに関するエラーが表示される】(84ページ)を参照してください。

9 インストール先を入力し、↵キーを押します。

表示されたディレクトリで良い場合は、そのまま↵キーを押します。

⇒ファイルのコピーが開始されます。

10 MS-DOS が起動するドライブを確認し、↵キーを押します。

11 各項目を設定し、↵キーを押します。

接続しているドライブのみを「使用する」に設定し、他は「使用しない」に設定してください。

12 環境ファイル(CONFIG.SYS/AUTOEXEC.BAT)を書き換えます。

通常は、「Y」キーを押します。

注意

「N」キーを押した場合は、環境ファイルが書き換わりません。
その場合は、お使いのエディタなどで編集してください。
(【参考３】(57ページ)も参照してください。)

13 「サポートソフト」ディスクを取りだします。

14 パソコンを再起動します。

以上で本製品とドライブは使えるようになりました。

参考１　ハードディスクをフォーマットする場合

本製品に接続したハードディスクを購入後初めて使う場合や、Windows 3.1、MS-DOS（PC DOS）で読み書き可能な状態にフォーマットされていない場合には、ハードディスクをフォーマットする必要があります。

ここでは、Windows 3.1、MS-DOS(PC DOS)上でのフォーマット方法について説明します。



Windows 3.1,MS-DOS(PC DOS)で使用する場合、以下の制限があります。
1. 最大8.4Gバイトまでしか使用できません。
2. DOS/VマシンのFDISK.EXEは使用できません。

DOS/Vマシンをご使用の場合、IDEFMT.EXEでのみフォーマットできます。

PC-9821シリーズをご使用の場合、IDEFMT.EXEとFORMAT.EXEの２種類の方法でフォーマットできます。

使用機種	フォーマット方法	特徴
DOS/Vマシン	IDEFMT.EXE※1（日本語モードで実行してください。）	・PC-9821シリーズと共有可能 ・弊社製IDE-98(PC-9800ｼﾘｰｽﾞ用)に接続した時にBOOT不可
PC-9821 シリーズ	IDEFMT.EXE※1	・DOS/Vマシンと共有可能 ・弊社製IDE-98(PC-9800シリーズ用)に接続した時にBOOT不可
	FORMAT.EXE※2	・DOS/Vマシンと共有不可能（IDEFMT.EXEで再フォーマットが必要） ・弊社製IDE-98(PC-9800シリーズ用)に接続した時に起動可能

※1 以下の【IDEFMTとは？】以降を参照。

※2 【PC-9821シリーズのFORMAT.EXEでのフォーマット】(52ページ)参照。

IDEFMTとは？

IDEFMTは本製品専用のWindows 3,1,MS-DOS(PC DOS)用フォーマットソフトです。

本製品に接続したハードディスクをフォーマットすることができます。



1)パーティションは１つ以上（最大５つまで）必ず作成してください。作成しないと使用できません。

2) IDEFMT.EXEは、１パーティションの最大容量が2,047Mバイトのため全容量を１つの領域だけで確保することはできません。２つ以上のパーティションを作成してください。

IDEFMTでパーティションを作成します

通常１台のハードディスクは、全容量を１つ以上のいくつかの領域に分割して使用することができます。この領域が**パーティション（区画領域）**です。
パーティションを作成しないとハードディスクは使用できません。
パーティションの作成はIDEFMTで行います。IDEFMTでパーティションの数とそれぞれのパーティションのサイズを設定することができます。
また、分割したパーティション毎にドライブ名が割り当てられるため、1台のハードディスクを複数台のドライブがあるかのように利用できます。

例1）ハードディスクの全容量を2つのパーティションで使用する場合
ハードディスクのドライブ数（ドライブ名）は2つ割り当てられます。

それではIDEFMTでフォーマットしましょう

1　パソコンを起動します。

Windows 3.1が起動している場合は、終了させてください。

2　次のように入力します。

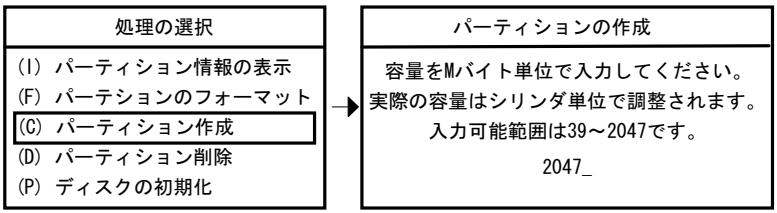
C:¥>IDEFMT ↵　　（下線部入力）

3　「対象ドライブの選択」画面が表示されます。

接続しているハードディスクを選択して、↵キーを押してください。

4　[処理の選択]で[パーティションの作成]を選択します。

[↑][↓]キーでカーソルを「(C) パーティションの作成」に移動し、↵キーで選択し、パーティションの作成を行ってください。
パーティションの作成を行うことによって、ディスクのフォーマットも終了します。



固定ディスク #2 を初期化します.
よろしいですか. (Y/N)

参考

各項目の詳細については、以下の【IDEFMT.EXEの「処理の選択」解説】を参照してください。

5　[ESC]キーを２回押して IDEFMT.EXE を終了します。

以上で、フォーマットは終了です。
フォーマット後は、必ずパソコンを再起動してください。

注意

フォーマットを行ったハードディスクに対してScandiskを実行すると、使用する環境によって以下のようなエラーが表示される場合があります。
〈エラーメッセージ〉
「ﾄﾞﾗｲﾌﾞ X:に一部のﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑが正常に動作しなくなる原因となる問題が見つかりました。」
この場合は、Scandiskにより修復を行うか、無視してください。
（修復を行わなくても、また無視しても実用上での問題はありません。）

●**IDEFMT.EXE**の「処理の選択」解説

(I) パーティション情報の表示	パーティションの状態を表示します。
(F) パーティションのフォーマット	パーティションを選択後、論理フォーマットを行います。
(C) パーティションの作成	新規パーティションを作成します。 ただし作成可能なパーティション数は、5つまでです。 作成領域の入力は、Mバイト単位ですが、領域の確保する単位はシリンダ単位になります。 また、ハードディスクの1パーティションの最低サイズは39Mバイトです。
(D) パーティションの削除	末尾のパーティションを削除します。
(P) ディスク初期化	ディスク上のすべてのデータを消去します。

《PC-9821シリーズの FORMAT.EXEでのフォーマット 》

1 パソコンを起動します。

Windows 3.1 が起動している場合は、終了させてください。

2 パソコン本体付属の format コマンドを実行します。

(MS-DOSのインストール先のドライブがAの場合)

A:¥>**format /h**↵（下線部入力）

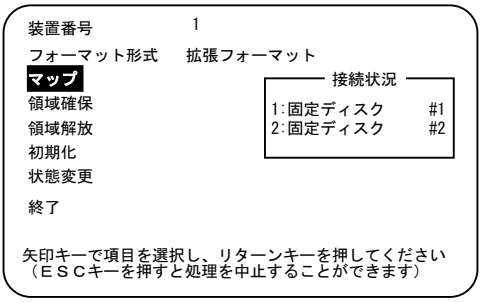
参考

formatコマンドについては、パソコンの取扱説明書を参照してください。

3 メニュー画面が表示されます。接続状況を見て、初期化作業を行いたい固定ディスクの装置を探し、装置番号を調べます。

本製品に接続したハードディスクは最後の装置番号の固定ディスクです。

（画面例：「2:固定ディスク」が接続したハードディスクです。）



4 メニューから、[↑][↓]キーで[装置番号]にカーソルを移動し、↵キーを押します。

5 以下の画面で、[←][→]キーで、手順３で調べた装置番号を選び、↵キーを押します。

装置番号を指定してください
（ＥＳＣキーを押すと処理を中止し、前画面に戻ることができます）
1　2

注意

間違った装置番号を選ぶと、その装置（ハードディスク）のデータ内容が全て消えてしまいます。

6 メニュー画面に戻ります。

装置番号が変わっていることを必ず確認してください。

7 メニューから、[↑][↓]キーで[マップ]にカーソルを移動し、↵キーを押します。

未フォーマットのハードディスクドライブの場合、画面に「システム管理域が不正です」と表示されます。（このように表示されない場合は装置番号が違っています。何かキーを押し、手順**3**に戻ってやり直してください。）

表示を確認後、何かキーを押すと、メニューに戻ります

8 メニューから、[↑][↓]キーで[初期化]にカーソルを移動し、↵キーを押します。

画面下部に次のように表示されます。

装置全体を初期化します．よろしいですか
（ＥＳＣキーを押すと処理を中止し、前画面に戻ることができます）
はい　いいえ

9 [はい]を選び、装置番号を再度確認して、↵キーを押します。

「装置を初期化中です」のメッセージが表示され、初期化が始まります。
ご使用のパソコンおよび接続しているハードディスクにより、20分～60分前後かかります。
「装置の初期化を終了しました」と表示されたら、何かキーを押します。
メニュー画面に戻ります。

10 メニューから、[↑][↓]キーで[領域確保]を選び、↵キーを押します。

11 画面の指示にしたがって、入力します。

1. 確保容量：必要な容量を入力して、↵キーを押します。
2. シリンダ番号：そのまま↵キーを押します。（先頭より確保）
3. システム転送：[転送しない]を選び、↵キーを押します。
4. ボリュームラベル：そのまま↵キーを押します。

12 以下の画面が表示されます。

```
領域の確保を行います．準備はよろしいですか
（はい：確保する　いいえ：確保しない）
（ＥＳＣキーを押すと処理を中止し、前画面に戻ることができます）
はい　いいえ
```

[はい]を選び、装置番号を再度確認して、↵キーを押します。
領域確保が開始され、進行状況が%表示されます。
領域確保が終了したら、メニュー画面になります。
手順 *10* の操作に戻り、残りの容量の領域確保を行ってください。

13 メニューより[終了]を選ぶと DOS プロンプト状態になるので、パソコンを再起動します。



再起動後、他の機器のドライブ名が変更になる場合がありますので、各装置のドライブ名を再度ご確認ください。

参考２　MOディスクをフォーマットする場合

MOディスクをフォーマットする場合は、以下の手順で行ってください。

1 パソコンを起動します。

Windows 3.1 が起動している場合は、終了させてください。
（Windows 3.1 の DOS プロンプトでは動作できません。）

2 MOUTL を起動します。

以下のように入力し、↵キーを押します。

DOS/Vマシン　C:¥>MOUTL

PC-9821シリーズ　A:¥>MOUTL /ASPI_

3 MO ドライブを選び、↵キーを押します。

接続されている MO ドライブが表示されるので、[↑][↓]キーで対象の MO ドライブを選び、↵キーを押します。

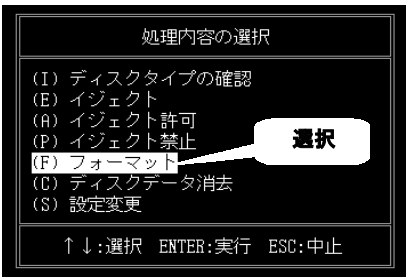


MOA-AX640SWを接続した場合

4 MO ドライブに MO ディスクを挿入します。

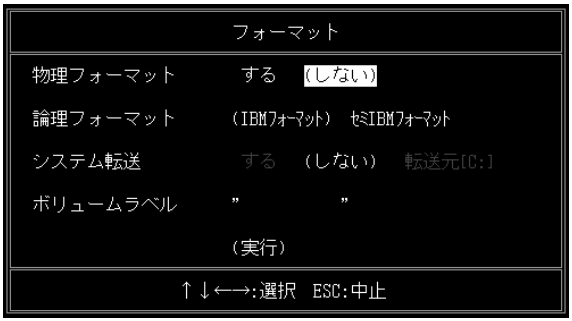
アクセスランプが一度点灯して消灯することを確認します。

5 [↑][↓]キーで[フォーマット]を選び、↵キーを押します。



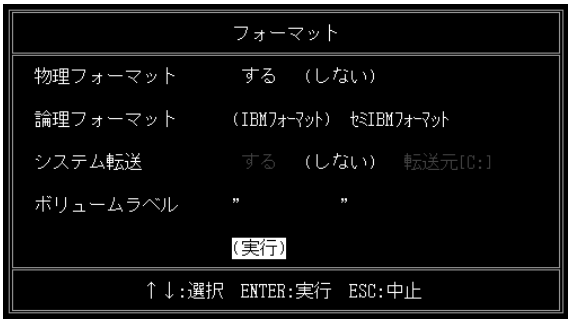
6 [↑][↓][←][→]キーで項目を選びます。

物理フォーマット	通常は[しない]を選びます。
論理フォーマット	通常は[IBMフォーマット]を選びます。
システム転送	PC-9821シリーズのみ可能です。 起動MOディスクを作るときに[する]を選びます。(1300MB、640MBのディスクに対しては行うことができません。) ただし、本製品に接続したMOドライブではMOディスクから起動することはできません。
ボリュームラベル	ラベル名を指定したいときに入力します。



7 「実行」にカーソルを合わせ、↵キーを押してください。

フォーマットを開始します。



8 ↵キーを押し、[ESC] キーを何度か押します。

フォーマットが終わるとMOディスクが排出されるので↵キーを押すと、手順**3** の画面に戻ります。

DOS プロンプト状態になるまで[ESC]キーを押します。

参考３　CONFIG.SYSの例

ここでは、各機種ごとでのPCカードドライバ（ソケットサービス／カードサービス）と本製品およびハードディスクのドライバソフトの CONFIG.SYSへの組み込み例を示しています。
必要に応じてご覧ください。

1)占有メモリについて
本製品はカード属性情報（タプル）を持っています。この情報を読み出すために使用するメモリ空間はUMBやEMSとして設定されないようにする必要があります。
そのため、CONFIG.SYSファイルの EMM386.EXE等のメモリマネージャの行にオプションを指定します。
2)CONFIG.SYSの例では、“O”は「ｵｰ」、“0”は「ｾﾞﾛ」となります。
3)マルチコンフィグ機能を使用している場合は、CONFIG.SYSに設定されたSCSIデバイス用の記述を[COMMON]領域(または各環境領域)に移動してください。

■DOS/Vマシン

● Phoenix社の場合(olibetti ECHOS24C)

（“O”はｵｰ、“0”はｾﾞﾛ）

```
DEVICE=C:¥DOS¥EMM386.EXE X=C800-C8FF X=C900-CCFF
                                        ( メモリマネージャ　)
                    (弊社 VMM386.EXE の場合
                      C:¥MDEV¥IOSPRO¥VMM386.EXE /ROM=C8-CC)
DEVICE=C:¥PCMPLUS¥CNFIGNAM.EXE /DEFAULT
DEVICE=C:¥PCMPLUS¥PCMSS.EXE          ( ソケットサービス　)
DEVICE=C:¥PCMPLUS¥PCMCS.EXE          ( カードサービス　　)
DEVICE=C:¥PCMPLUS¥PCMSCD.EXE
DEVICE=C:¥CI-ICN¥DUOATA16.SYS /V     ( CI-iCN用ドライバ )
DEVICE=C:¥CI-ICN¥DUOATADD.SYS        (接続したハードディスク用)
LASTDRIVE = Z
```

● SystemSoft社の場合(COMPAQ CONTURA 400等)

・CONFIG.SYSの例（“O”はｵｰ、“0”はｾﾞﾛ）

```
DEVICE=C:¥DOS¥EMM386.EXE X=D000-DFFF　（メモリマネージャ）
                        （弊社 VMM386.EXE の場合
                          C:¥MDEV¥IOSPRO¥VMM386.EXE /ROM=D0-DF）
DEVICE=C:¥CARDSOFT¥SSVLSI.EXE　　（ ソケットサービス　）
DEVICE=C:¥CARDSOFT¥PCMSMIX.EXE
DEVICE=C:¥CARDSOFT¥CS.EXE　　（ カードサービス　　）
DEVICE=C:¥CARDSOFT¥CSALLOC.EXE
DEVICE=C:¥CARDSOFT¥CARDID.EXE C:¥CARDSOFT¥CARDID.INI
DEVICE=C:¥CI-ICN¥DUOATA16.SYS /V　　（ CI-iCN用ドライバ ）
DEVICE=C:¥CI-ICN¥DUOATADD.SYS　　（接続したハードディスク用）
LASTDRIVE = Z
```

● IBM社の場合(ThinkPad 230Cs等)

・CONFIG.SYSの例（“O”はｵｰ、“0”はｾﾞﾛ）

```
DEVICE=C:¥DOS¥EMM386.EXE X=C800-CFFF　（ メモリマネージャ　）
                        （弊社 VMM386.EXE の場合
                          C:¥MDEV¥IOSPRO¥VMM386.EXE /ROM=C8-CF）
DEVICE=C:¥EZGOING¥IBMDSS01.SYS /M　（ ソケットサービス　）
DEVICE=C:¥EZGOING¥IBMDOSCS.SYS　　（ カードサービス　　）
DEVICE=C:¥EZGOING¥DICRMU01.SYS /MA=C800-CFFF
DEVICE=C:¥EZGOING¥AUTODRV.SYS C:¥EZGOING¥AUTODRV.INI
DEVICE=C:¥CI-ICN¥DUOATA16.SYS /V　　（ CI-iCN用ドライバ ）
DEVICE=C:¥CI-ICN¥DUOATADD.SYS　　（接続したハードディスク用）
LASTDRIVE = Z
```

■*PC-9821シリーズ*

・CONFIG.SYSの例（“O”はｵｰ、“0”はｾﾞﾛ）

```
DEVICE=A:¥DOS¥EMM386.EXE /E=DC00-DFFF（ メモリマネージャ　）
                        （弊社 VMM386.EXE の場合
                          C:¥MDEV¥IOSPRO¥VMM386.EXE /ROM=DC-DF）
DEVICE=A:¥DOS¥SSDRV.SYS　　（ ソケットサービス　）
DEVICE=A:¥DOS¥CS.EXE　　（ カードサービス　　）
DEVICE=A:¥DOS¥CSALLOC.EXE A:¥DOS¥CSALLOC.INI
DEVICE=A:¥DOS¥CARDID.EXE A:¥DOS¥CARDID.INI
DEVICE=A:¥CI-ICN¥DUOATA16.SYS /V　　（ CI-iCN用ドライバ ）
DEVICE=A:¥CI-ICN¥DUOATADD.SYS　　（接続したハードディスク用）
LASTDRIVE = Z
```

参考４　添付ドライバの詳細

ここでは、MS-DOS（PC DOS,Windows 3.1）で使用する本製品のドライバソフトについての詳細を説明します。必要に応じてご覧ください。

DUOATA16.SYS

カードサービスクライアントドライバです。
本製品を初期化してI/Oポートを割り当てます。

〈書式〉

DEVICE=C:¥CI-ICN¥DUOATA16.SYS ［オプション］
（インストール先フォルダがCドライブの場合）

〈オプション〉

/V	詳細情報を表示します。
/IO=	**I/O**ポートアドレスを指定します。通常は自動的に**I/O**アドレスが決定されるため、設定する必要はありません。**I/O**アドレスの競合が起こった場合に、任意のアドレスに変更します。 ◎DOS/Vマシンの場合 **180,190,1A0**のいずれかを指定します。 〈使用例〉（“**O**”はｵｰ、“**0**”はｾﾞﾛ） **DEVICE=C:¥CI-ICN¥DUOATA16.SYS /IO=180** （この場合 I/Oアドレスが 180-187,386-387に割り当てられます。） ◎PC-9821シリーズの場合 **xxD0** or **xxE0**と指定します。※**(xx**は任意の値**)** 〈使用例〉（“**O**”はｵｰ、“**0**”はｾﾞﾛ） **DEVICE=A:¥CI-ICN¥DUOATA16.SYS /IO=01D0** （この場合 I/Oアドレスが1D0-1D7,1D8-1D9に割り当てられます。） ※ハードウェア仕様と異なりますが、正しく指定できます。
/MEM=	本製品はデータ転送時にメモリ空間を使用します。 (初期設定値ではメモリ空間を使用しません。) 使用する環境によってはメモリ空間の空きがなくカードが初期化されない場合がありますが、その場合 /MEMオプションにてメモリウィンドウの長さを指定します。(ただし、メモリ空間のサイズが小さくなると、データ転送速度が低下します。) 設定値は 0、4、8のいずれかです。 それぞれ 0Kバイト,4Kバイト,8Kバイトのメモリウィンドウを開きます。

DUOATADD.SYS

本製品のハードディスク用ドライバソフトです。
本製品が**DUOATA16.SYS**で初期化されている必要があります。

<書式>

DEVICE=C:¥CI-ICN¥DUOATADD.SYS
（インストール先フォルダがCドライブの場合）

<オプション>

/MODE=	アクセスモードを指定します。 /MODE=L ：PIO転送を行います。 /MODE=H ：データ転送時にメモリ空間を使用し、高速転送を行います。

ATASPI.EXE

ATAPI対応ドライブをASPIコマンドで制御できるように、ATAPI機器とSCSI機器の違いを吸収するドライバソフトです。
本製品を使用する際に必要です。

プログラム名　　**ataspi.exe**
書式　　**device=ataspi.exe［オプション］**

【オプション】

/CBIDE2	本製品をお使いになる際に必要ですので、つけてください。
/UIDE	**本製品では使用しません。** 弊社製品「UIDEシリーズ」に対応します。 UIDEシリーズをお使いの場合につけてください。

DUOATAPE.SYS　(DOS/Vマシン専用)

本製品を初期化してリソースを割り当てるドライバソフトです。
※本製品に接続したCD-ROMドライブからWindows 98/95をインストールする際に使用します。詳細は、【参考　機種別の本製品を使ったWindows 98/95再セットアップ】(104ページ)を参照してください。
本ドライバソフトは、PCカードコントローラ(PCIC)を直接操作し、本製品を初期化します。（Intel82365互換コントローラ対応の）ソケットサービス、カードサービスは必要ありません。

〈書式〉

DEVICE=C:¥CI-ICN¥DUOATAPE.SYS　［オプション］
（インストール先フォルダがCドライブの場合）

〈オプション〉

/V	詳細情報を表示します。
/IO=	I/Oポートアドレスを指定します。 **180,190,1A0**のいずれかを指定します。**(**デフォルト：**180)** 〈使用例〉（ “**O**”はｵｰ、 “**0**”はｾﾞﾛ） **DEVICE=C:¥CI-ICN¥DUOATAPE.SYS /IO=180** （この場合 I/Oアドレスが 180-187, 386-387に割り当てられます。）
/MA=	メモリ空間アドレスを指定します。(指定しない時は自動検索します。) **C000,C400,C800,CC00,D000,D400,D800,DC00**のいずれかを指定します。

DUOATACD.SYS

本製品に接続するCD-ROM用ドライバです。
本製品がDUOATA16.SYSまたはDUOATAPE.SYSで初期化されている必要があります。

〈書式〉

DEVICE=C:¥CI-ICN¥DUOATACD.SYS　［オプション］
（インストール先フォルダがCドライブの場合）

〈オプション〉

/D	xxxxxxxxCDのデバイス名を指定します。指定のないときはIDECD001となります。必ず、AUTOEXEC.BATに組み込まれている「MSCDEX.EXE」記述行のオプションと統一してください。

MODISK.SYS

弊社製MOドライブ専用のASPI対応ディスクドライバソフトです。

プログラム名　　**modisk.sys**
書式　　**device=modisk.sys［オプション］**

【オプション一覧】

/INFO[=n]	ディスクドライバ組み込み時に、各種の情報を表示します。 **n** には情報表示のレベル(0～3)を指定します。 **=0**　情報表示無し **=1**　ドライブ名とデバイスタイプ、IDの対応を表示(初期設定) **=2**　ドライブ名とデバイスタイプ、IDの対応を詳細表示 **=3**　ASPIマネージャの情報表示とドライブ名、デバイスタイプ、IDの対応を詳細表示
/NOLOCK	ディスクアクセス時のMOディスク排出禁止処理を無効にします。このスイッチが指定されていない場合は、MS-DOSがディスクアクセスを行っている間、誤操作防止のためイジェクトボタンが無効になります。（MS-DOSのバージョンによっては、イジェクトボタンが無効にならない場合があります。）

/ID=<id>[,<id>[,・・・]]	MOドライブや他のSCSI機器が使用しているターゲットIDを指定します。 例）ターゲットIDの0､1を使用している場合 **/ID=0,1** このスイッチが指定されていない場合には、すべてのターゲットIDを検索して使用可能なデバイスを探します。 また、**<id>**は以下の形式でも記述できます。 <HostAdapter#><ターゲットID>　　または <HostAdapter#><ターゲットID><LUN> <HostAdapter#>……0～9（SCSI ホストアダプタ番号） SCSIインターフェイスを複数使用する場合、各SCSIインターフェイスに割り当てられている番号やATASPI.EXE自身のホストアダプタ番号 <ターゲットID>……0～7（ターゲットID） 各SCSIインターフェイスで使用しているSCSI機器のSCSI-IDやATASPI.EXEが割り当てるID <LUN>…… 0～7（論理装置番号） 6連装CD-ROMドライブなど、複数のドライブを切り替えて使用するSCSI機器の論理装置番号 <HostAdapter#>は通常「0」となります。（PC-9821シリーズでATASPI.EXEとSCSIインターフェイスを併用する場合は、ASPIマネージャが別途必要になります。） 例）ターゲットIDの0､1を使用している場合 **/ID=00,01**　　または **/ID=000,010**
/LUN	**/ID** オプションを指定しない場合の使用可能なデバイス検索で、論理装置番号の全て（0～7）を検索します。 このオプションを指定しなかった場合は、論理装置番号 0 のみの検索となります。
/ASPI	PC-9821シリーズでASPIマネージャを使用する際に指定します。（DOS/Vマシンでは、常に有効となります。） ※ PC-9821シリーズでMOドライブを使用する場合は、必ず指定してください。
/PAUSE	このディスクドライバを組み込み中に、表示を一時停止します。
/WCACHE	MOドライブのライトキャッシュ機能を有効にします。
/NOWCACHE	MOドライブのライトキャッシュ機能を無効にします。

/IGNERR	ライトキャッシュ使用中に修復不可能な書き込みエラーが発生した場合、確認メッセージを表示後、エラーを無視して処理を続行します。 このスイッチが指定されていない場合には、エラー発生後の該当ドライブへのアクセスは全て拒否され、被害の拡大を抑えます。
/US	強制英語表示指定 （DOS/Vマシンの日本語表示環境でも英語表示をします。）
/FDISK	DOS/VマシンのハードディスクフォーマットされたMOディスクへのアクセスを許可します。このオプションを指定すると、DOS/VマシンハードディスクフォーマットされたMOディスクの第１パーティションのみを読み書きできます。
/NOEXCLUDE	MS-DOS(PC DOS)から認識されているドライブを**modisk.sys**の処理対象から除外しません。 通常は、MS-DOS(PC DOS)に認識されているドライブは**modisk.sys**の対象外として処理されますが、一部のASPIマネージャとの組み合わせで、このオプション指定が必要となる場合があります。（通常は設定しないでください。） このオプション指定をする場合は、必ず「**/ID**」オプションで対象となるドライブを指定してください。 ・「**/FDISK**」オプションと併用しないでください。

modisk.sysの組み込み時に[Ctrl]キーを押していると、組み込みを中止できます。
最大8台までのドライブを制御できます。
ただし、modisk.sysの組み込み時に、ドライブ名が「Z:」を越えた場合は、以降のドライブは無視されます。

MODISKX.SYS

プログラム名　　**modiskx.sys**
書式　　**device=modiskx.sys［オプション］**

本ドライバは、DOS/Vマシンの FDISK コマンドで複数の領域が作成されている MO ディスクをアクセスする場合に使用します。
本ドライバは、1台のドライブで最大4個の論理ドライブに対応しています。
各種の MO ディスクを挿入した場合の論理ドライブの割り当て方法を下記に示します。（本ドライバで、640,1300MB の MO ディスクはアクセスできません。）

論理ドライブ	スーパーフロッピィ・フォーマット ※		ハードディスク・フォーマット ※				その他の形式
	IBM形式	ゼIBM形式	割り当てる論理ドライブ数１	割り当てる論理ドライブ数２	割り当てる論理ドライブ数３	割り当てる論理ドライブ数４	
１番目	ディスクイメージ	ディスクイメージ	最初の有効な領域	最初の有効な領域	最初の有効な領域	最初の有効な領域	Unknown Media
２番目	Not Ready	Not Ready	Not Ready	２番目の有効な領域	２番目の有効な領域	２番目の有効な領域	Not Ready
３番目	Not Ready	Not Ready	Not Ready	Not Ready	３番目の有効な領域	３番目の有効な領域	Not Ready
４番目	Not Ready	Not Ready	Not Ready	Not Ready	Not Ready	４番目の有効な領域	Not Ready

ディスクイメージ　：通常の MO ディスクとして認識できます。　※640MB/1300MB の MO ディスクを除く
Not Ready　：ドライブの準備ができていません。
Unknown Media　：不正な MO ディスクです。

【オプション一覧】

/INFO[=level]	**modisk.sys**と同じ
/NOLOCK	**modisk.sys**と同じ
/ID=<id>[,<id>[,・・・]][(<Partitions>)]	ドライブや他の SCSI 機器が使用しているターゲット ID を指定します。 例）ターゲット ID の0,1を使用している場合 **/ID=0,1** このスイッチが指定されていない場合には、すべてのターゲット ID を検索して使用可能なデバイスを探します。 <Partitions>は、割り当てる論理ドライブ数を1～4の範囲で指定します。この指定が省略された場合には、**/PARTITION**スイッチで指定した数の論理ドライブが割り当てられます。 例）ターゲット ID の2に、論理ドライブを3個割り当てる場合 **/ID=2(3)**

/ID=<id>[,<id>[,・・・]][(<Partitions>)]	また、**<id>**は以下の形式でも記述できます。 <HostAdapter#><ターゲットID>　　または <HostAdapter#><ターゲットID><LUN> <HostAdapter#>……0～9（ホストアダプタ番号） SCSIインターフェイスを併用する場合、 ATASPI.EXEやSCSIインターフェイスに割り当てられている番号 <ターゲットID>……0～7（ターゲットID） ATASPI.EXEが割り当てるIDや各SCSIインターフェイスで使用しているSCSI機器のSCSI-ID <LUN>……0～7（論理装置番号） 6連装CD-ROMドライブなど、複数のドライブを切り替えて使用するSCSI機器の論理装置番号 <HostAdapter#>は通常「0」となります。（PC-9821シリーズでATASPI.EXEとSCSIインターフェイスを併用する場合は、ASPIマネージャが別途必要になります。） 例）ターゲットIDの0,1を使用している場合 **/ID=00,01**　　または **/ID=000,010**
/LUN	**modisk.sys**と同じ(62ページ)
/ASPI	
/PAUSE	
/WCACHE	
/NOWCACHE	
/IGNERR	
/US	
/NOEXCLUDE	
/PARTITION =<Partitions>	各物理ドライブに割り当てる論理ドライブ数のデフォルト値を指定します。（**/ID=<id>(Partitions)**指定されていない物理ドライブで、このオプションが有効になります。）**<Partitions>**に指定できる値は1～4で、デフォルト値は1です。

modiskx.sysの組み込み時に[Ctrl]キーを押していると、組み込みを中止できます。
最大4台までのドライブを制御できます。
ただし、modiskx.sysの組み込み時に、ドライブ名が「Z:」を越えた場合は、以降のドライブは無視されます。

MOUTL.EXE

このプログラムはMS-DOSコマンド入力状態からオプションを付けて以下のように直接起動することができます。オプションをつけないと、メニュー形式になります。

プログラム名　　**moutl.exe**
書式　　**moutl**［オプション］　［ドライブ指定またはモード指定］

【ドライブ指定】

処理を行うドライブを指定します。MS-DOSのドライブ名で指定する場合は<drive>: の形式（ドライブ装置全体が対象）、ターゲットIDで指定する場合は#<ターゲットID> の形式で指定します。

【オプション一覧】

?	オプションの簡単な説明を表示します。
E	指定ドライブのディスクをイジェクトします。
P	指定ドライブのイジェクトを禁止します。
A	指定ドライブのイジェクトを許可します。
I	指定ドライブのディスクタイプを表示します。
LUN	論理装置の１番から７番までを使用する場合に指定します。
US	強制英語表示指定（日本語表示環境でも英語表示をします）
L	ドライブリストを表示します。 表示例）　MOA-AX640SWを接続した場合 D:　HA:0　ID:0　MOディスク　FUJITSU　M25-MCC3064AP D:..... ドライブ名（複数パーティションになっている場合は先頭ドライブ名） HA:0..... ホストアダプタ番号（通常は「0」） ID:0..... ターゲットID MOディスク..... デバイス種別 FUJITSU..... ベンダー名称 M25-MCC3064AP..... ドライブの製品名
ASPI	PC-9821シリーズでASPIマネージャを使用する際に指定します。 **※ 必ず指定してください。**
CACHE [R{+|-}][W{+|-}]	ドライブのキャッシュ設定状態を変更します。 R+..... リードキャッシュON R-..... リードキャッシュOFF W+..... ライトキャッシュON W-..... ライトキャッシュOFF

Memo

付録

困ったときには
本製品を使っていて、異常があったときにご覧ください。 70ページ

本製品を使ったWindows XPのセットアップ
本製品にCD-ROMドライブを接続して、Windows XPをセットアップする手順の説明です。 87ページ

本製品を使ったWindows 2000のセットアップ
本製品にCD-ROMドライブを接続して、Windows 2000をセットアップする手順の説明です。 92ページ

本製品を使ったWindows Meのセットアップ
本製品にCD-ROMドライブを接続して、Windows Meをセットアップする手順の説明です。 98ページ

本製品を使ったWindows 98のセットアップ
本製品にCD-ROMドライブを接続して、Windows 98をセットアップする手順の説明です。 100ページ

本製品を使ったWindows 95のセットアップ
本製品にCD-ROMドライブを接続して、Windows 95をセットアップする手順の説明です。 102ページ

ドライバの更新
ドライバソフトの更新手順を説明します。 135ページ

サポートソフトの削除
サポートソフトの削除手順を説明します。 136ページ

用語解説
本書内の用語を説明します。 139ページ

ハードウェア仕様
本製品の仕様を説明します。 140ページ

困ったときには

本製品を使っていて、異常があったときにご覧ください。

弊社ホームページをご覧ください

サポートWebページ内には、過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。こちらも参考にしてください。

http://www.iodata.jp/support/

製品Q&A Newsなど

添付のサポートソフトをバージョンアップすると解決することがあります。下記の弊社サポート・ライブラリから最新のサポートソフトをダウンロードしてお試しください。

http://www.iodata.jp/lib/

最新 サポートソフト

●Windows 共通のトラブル

状態	参照ページ
Windows起動中に止まってしまう	72
ファイルの読み書きができない	
接続したドライブのアイコンが表示されない	73

●Windows Me/98/95 でのトラブル

状態	参照ページ
本製品を CardBus モードでお使いのときにサスペンドから復帰したらドライブのアイコンが消えていたり、アクセスできなくなった *(Windows 98/95のみ)*	77
本製品をPCカードスロットに取り付けると、【新しいハードウェア】画面が表示された	
PC98-NXシリーズをお使いで、[デバイスマネージャ]タブが表示されない	
IBM製ThinkPadをお使いで、本製品を接続しているのにPCカードのプロパティに「(空)-ソケット1(2)」と表示される *(Windows 95のみ)*	78
VAIO PCG-731/733/737をお使いで、サスペンドを利用後にリセットがかかって、Safeモードでないと起動できない	80
Windows 98で、OSの終了画面で止まってしまう	

●Windows 3.1、MS-DOS(PC DOS)でのトラブル

状態	参照ページ
使おうとすると、「準備ができていません」と表示される	84
カードサービスに関するエラーが表示される	
他のOSでフォーマットしたハードディスクを接続してもドライブの一部あるいは全部にアクセスできない	

Windows共通のトラブル

Windows 起動中に止まってしまう

原因 本製品と他のPCカードの組み合わせに問題がある

対処 【使用上の注意】(6ページ)を参照してください。

ファイルの読み書きができない

原因1 メディアが挿入されていない

対処 MOドライブなどのリムーバブルドライブをお使いの場合は、メディアが挿入されているかご確認ください。

原因2 ドライブが正常に接続されていない

対処 【接続したドライブのアイコンが表示されない】(次ページ)の対処方法を参照してください。

原因3 ドライブやメディアのフォーマット形式が異なっている

対処 ドライブやメディアをフォーマットし直してお使いください。
※注意：以前のデータは全てなくなります。

原因4 16bit高速アクセスモードが使用できない（Windows Me/98/95のみ）

対処 以下の手順を行ってみてください。

1 **本製品のアンインストールをします。**
【サポートソフトの削除】（136ページ）を参照して、アンインストールを行います。

2 **本製品を16Bit PIO Modeでインストールします。**
【使えるようにしよう】（16ページ）の***手順1～7***を行います。
その際、***手順5***で**[16Bit PIO Mode]**を選択してインストールしてください。

接続したドライブのアイコンが表示されない

対処　いくつかの原因が考えられますので、以下の手順で確認を行ってください。

1 「マイコンピュータ」を開きます。

2 [最新の情報を表示] します。

［表示］→［最新の情報を表示］の順にクリックします。

表示されたかどうか確認

3 本製品とパソコンの接続を確認します。

本製品をパソコンから取り外し、再び取り付けてください。

表示されたかどうか確認

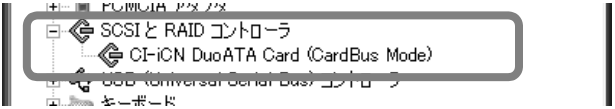
4 [デバイスマネージャ]画面で本製品のドライバを表示させます。

・Windows XP/2000の場合

①[マイコンピュータ]アイコンを右クリックし(Windows XPの場合は[スタート]→[マイコンピュータ]を右クリック)、
表示された[プロパティ]をクリックします。

②[ハードウェア]タブの[デバイスマネージャ]ボタンをクリック後、[表示]メニューで[デバイス(種類別)]を選択します。

③[SCSIとRAIDコントローラ]をダブルクリックします。
その下に本製品のドライバが表示されます。



・Windows Me/98/95の場合

①[マイコンピュータ]アイコンを右クリックし、表示された[プロパティ]をクリックします。

②[デバイスマネージャ]タブをクリック後、[種類別に表示]を選択します。

③[ハードディスクコントローラ]をダブルクリックします。
その下に本製品のドライバが表示されます。

5 「CI-iCN DuoATA Card……」があるか確認します。

「CI-iCN DuoATA Card･･･」がない場合

対処1 パソコンにPCカードスロットが複数ある場合は、挿入しているスロットを変更してお試しください。

対処2 本製品が正常にインストールされていません。
【サポートソフトの削除】(136ページ)をご覧になり、削除した後、再度サポートソフトをインストールし直してください。

「！」マークがついている場合

対処1 パソコンにPCカードスロットが複数ある場合は、挿入しているスロットを変更してお試しください。

対処2 本製品が正常にインストールされていません。
【サポートソフトの削除】(136ページ)をご覧になり、削除した後、再度サポートソフトをインストールし直してください。

対処3 本製品のリソースが競合しています。次の手順にお進みください。(16bitモードの場合のみ)

正常に表示されている場合

対処 本製品と他の製品のリソースが競合しています。
次の手順にお進みください。(16bitモードの場合のみ)

6 Windows 98/95でMOドライブをお使いの場合は、ドライブ名の予約を行います。

【ドライブ名の予約】(83ページ)をご覧ください。

これより下は、本製品を「16bitモード」でご使用の場合のみご覧ください。
「CardBusモード」にてご使用でまだ解決されない場合は、弊社サポートセンター(141ページ)までご連絡ください。

7 パソコンで使用しているリソース(IRQ)を確認します。

・Windows XP/2000の場合

①[マイコンピュータ]アイコンを右クリックし(Windows XPの場合は[スタート]→[マイコンピュータ]を右クリック)、
表示された[プロパティ]をクリックします。

②[ハードウェア]タブの[デバイスマネージャ]ボタンをクリック後、[表示]メニューで[リソース(種類別)]を選択します。

③[割り込み要求(IRQ)]をダブルクリックします。

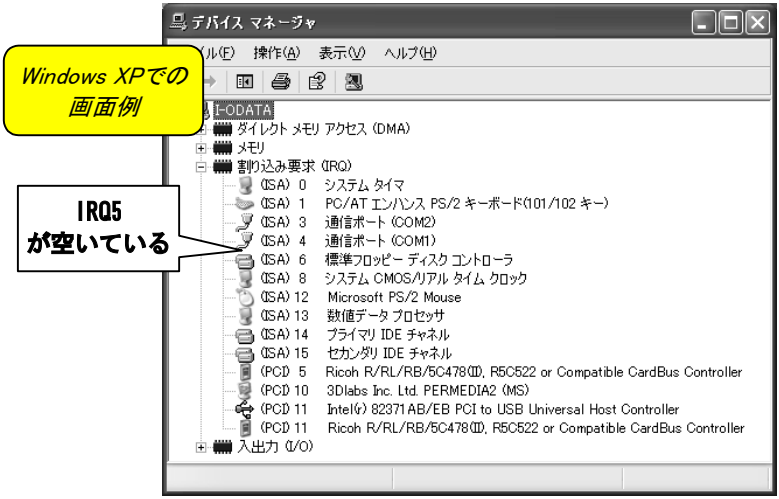
④割り込みの空きを確認します。表示された数字で1～15の中に無い数字があればそこは空いています。

・Windows Me/98/95の場合

①[マイコンピュータ]アイコンを右クリックし、表示された[プロパティ]をクリックします。

②[デバイスマネージャ]タブをクリック後、[種類別に表示]を選択します。

③[ハードディスクコントローラ]をダブルクリックします。
その下に本製品のドライバが表示されます。



空きがない場合

対処

使用していないパソコン本体の機能を無効化して割り込みの空きを用意してください。（無効化する方法についてはパソコン本体の取扱説明書もしくはパソコン本体メーカーにご確認ください）

8 パソコンを再起動します。

これで表示された

対処

IRQが空いたので認識されました。
このまま、問題無くお使いいただけます。

Windows Me/98/95でのトラブル

本製品を CardBus モードでお使いのときにサスペンドから復帰したらドライブのアイコンが消えていたり、アクセスできなくなった

(Windows 98/95 のみ)

原因 本製品が認識されていない

対処 本製品をパソコンから取り外したあと、もう一度挿しなおしてください。

本製品を PC カードスロットに取り付けると、【新しいハードウェア】画面が表示された

原因 正しくインストールしていない

対処 [キャンセル]ボタンで画面を閉じて、本製品をPCカードスロットから取り外し、【使えるようにしよう】(16ページ)を参照してサポートソフトをインストールしてから本製品を取り付けてください。

PC98-NX シリーズをお使いで、[デバイスマネージャ]タブが表示されない

原因 デバイスマネージャを表示できる設定になっていない

対処 デバイスマネージャが表示される設定に変更してください。
設定方法については、パソコン本体取扱説明書をご覧になるか、パソコンメーカーにお問い合わせください。

IBM 製 ThinkPad をお使いで、本製品を接続しているのに PC カードのプロパティに「(空)-ソケット 1(2)」と表示される　(Windows 95 のみ)

対処　以下の【方法1】および次ページの【方法2】をおためしください。

方法 1

1　本製品をパソコンに接続します。

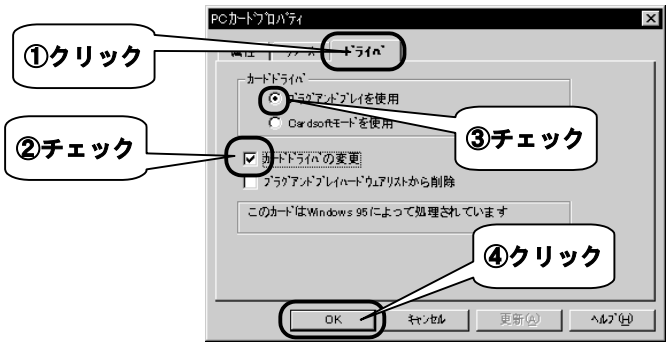
2　［CardWizard］を起動します。

デスクトップ上にある［CardWizard］アイコンをダブルクリックします。アイコンがない場合は、［スタート］→［プログラム］→［CardWorks］→［CardWizard］の順にクリックします。
両方ない場合は、「方法２」（次ページ）を行ってください。

3　［表示］→［プロパティ］を選択します。

4　［ドライバ］タブをクリック後、カードドライバ」を変更します。

「カードドライバの変更」にチェックを入れ、［プラグアンドプレイを使用］をチェックします。
終わりましたら、［OK］ボタンをクリックします。



5　［OK］ボタンをクリックします。

6　本製品をPCカードスロットから一度抜き、再び挿入します。

方法2

1 「SYSEDIT」を起動します。

［スタート］→［ファイル名を指定して実行］の順にクリックします。
「名前」に「SYSEDIT」と入力し、［OK］ボタンをクリックします。

2 「CONFIG.SYS」を編集します。

「CONFIG.SYS」ウィンドウをクリックし、「¥CardWorks¥」の入ったすべての行の一番前に「REM 」を追加します。
終わりましたら、上書き保存を行いウィンドウを閉じます。

3 パソコンを再起動します。

4 本製品をパソコンに接続します。

5 【PCカードのプロパティ】画面で本製品が表示されているかを確認します。

方法は、【確認しよう】(24ページ)を参照。

確認したが、本製品が表示されていない場合

対処

弊社サポートセンターまでご連絡ください。
（141ページ参照）

6 「SYSEDIT」を起動します。

方法は、*手順1*を参照。

7 手順2で追加した「REM 」を全て削除します。

終わりましたら、上書き保存を行いウィンドウを閉じます。

VAIO PCG-731/733/737 をお使いで、サスペンドを利用後にリセットがかかって、Safe モードでないと起動できない

原因 サスペンドの設定に問題がある

対処 以下のようにしてください。

1 下側のPCカードスロットに本製品を挿入します。

2 「Modem Ring Resume」を「オフ」にします。

「PowerPanel」の設定で、「Modem Ring Resume」を「オフ」にします。

※「PowerPanel」についてはパソコンの取扱説明書をご覧ください。

3 「パワーマネジメント」の設定を変えます。

Windows 98/95では、［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］内の［パワーマネジメント］をダブルクリックします。

［詳細］タブをクリックし、「電話が鳴ったら、コンピュータを元の状態に戻す」のチェックを外します。

Windows 98 で、OS の終了画面で止まってしまう

原因 USBドライバと本製品のリソースが競合している

対処 以下の【方法1】および82ページの【方法2】【方法3】をおためしください。

方法 1

USB ドライバのリソース値を、以下の手順で変更してください。

1 本製品を挿入せずに、Windows 98を起動します。

2 「システムのプロパティ」を表示します。

［マイコンピュータ］アイコンを右クリックし、表示された［プロパティ］をクリックします。

3 ［デバイスマネージャ］タブをクリックします。

4 USBドライバのプロパティを開きます。

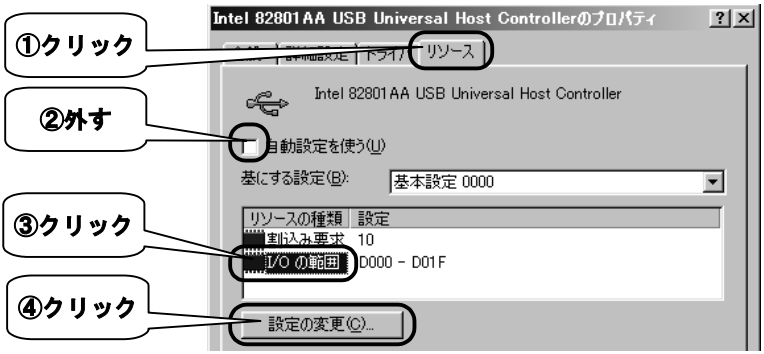
［ユニバーサル シリアル バス コントローラ］をダブルクリックし、その下のUSBドライバをダブルクリックします。

※表示されるUSBドライバはパソコンの機種により異なります。詳細は、パソコンメーカーにご確認ください。



5 ［I/Oの範囲］を編集します。

①［リソース］タブをクリックします。
②［自動設定を使う］のチェックを外します。
③［I/Oの範囲］を選択します。
④［設定の変更］ボタンをクリックします。



6 リソースの値を変更します。

「競合の情報」に「競合なし」と出るよう「値」を変更します。
［OK］ボタンをクリックします。

7 表示にしたがい、リソースを有効にします。

8 パソコンを再起動します。

9 正常にWindows 98が終了するかを確認してください。同じトラブルが発生する場合は、手順５で別の[I/Oの範囲]に変更してみてください。

方法2

【方法1】で改善されない場合は、この方法をお試しください。

1 ［システム情報］を起動します。

［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［システムツール］→［システム情報］を順にクリックします。

2 ［詳細設定］を表示します。

［ツール］→［システム設定ユーティリティ］→［詳細設定］を選択します。

3 「高速シャットダウンを使用不可にする」にチェックします。

4 正常にWindows 98が終了するかを確認してください。
同じトラブルが発生する場合は、以下の方法３をおためしください。

方法3

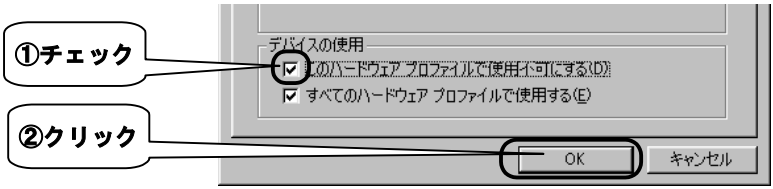
USBドライバを、使用不可にします。

1 【方法１】(80ページ)の１～４の手順を行います。

USBドライバのプロパティ画面を表示させます。

2 USBドライバを使用不可に設定します。

［このハードウェアプロファイルで使用不可にする］にチェックをつけ、［OK］ボタンをクリックします。



トラブルが直った場合

対処

リソース(I/Oの範囲)の競合が問題です。
【方法１】(80ページ)を再度お試しください。

ドライブ名の予約（Windows98/95のみ）

1 **「システムのプロパティ」を開きます。**

［マイコンピュータ］アイコンを右クリックし、表示された［プロパティ］をクリックします。

2 **［デバイスマネージャ］タブをクリックします。**

3 **［種類別に表示］を選択します。**

4 **［ディスクドライブ］をダブルクリックします。**

5 **［(MOドライブのドライバ)］をダブルクリックします。**

ここの名前は接続するMOドライブによって異なります。

6 **［設定］タブをクリックします。**

7 **「予約ドライブ文字」を設定します。**

［開始ドライブ］と「終了ドライブ」に、使っていない同じドライブ名を入力します。

8 **［OK］ボタンをクリックします。**

9 **［OK］ボタンをクリックします。**

10 **OSを再起動します。**

Windows 3.1、MS-DOS（PC DOS）でのトラブル

使おうとすると、「準備ができていません」と表示される

原因 本製品が正しく接続されていない

対処 【使えるようにしよう】(46ページ)を参照して、正しく取り付けます。

カードサービスに関するエラーが表示される

原因 カードサービスがインストールされていない

対処 インストールされているかどうかを確認し、インストールされていない場合はインストールしてください。
カードサービスの詳細については、パソコン本体メーカーにご確認ください。

他の OS でフォーマットしたハードディスクを接続してもドライブの一部あるいは全部にアクセスできない

原因 MS-DOSでアクセスできないフォーマット形式でフォーマットされている

対処 【参考1　ハードディスクをフォーマットする場合】(49ページ)を参照して、フォーマットをやり直してください。

原因 パーティションサイズの合計が8.4Gバイトを超えている。（DOS/Vマシンのみ）

対処 合計で8.4Gバイトを超える範囲までパーティションを作成した場合、ハードディスクにアクセスできなくなる場合があります。
パーティションサイズの合計を、8.4Gバイトまでに作成し直すか、第1パーティションをFAT16で作成して、MS-DOSでは第1パーティションのみをご利用ください。

エラーメッセージ

《DUOATA16.SYS関連エラーメッセージ》

オプションの記述が違います.

【添付ドライバの詳細】(59ページ)を参照して、オプションの記述が間違っていないか確認してください。

カードサービスが常駐していません.

パソコン本体付属のPCカードドライバ（ソケットサービス／カードサービス）をインストールしてください。詳しくはパソコンのマニュアルを参照するかパソコンのメーカーへお問い合わせください。

CI-iCNが見つかりません.

① PCカードスロットに本製品が正しく接続されているか確認してください。
② CONFIG.SYS中のEMM386.EXEまたはVMM386.EXE等のメモリマネージャにUMB禁止オプションを付加してください。（【CONFIG.SYSの例】(57ページ)参照）
③本製品のモードスイッチが「16bitモード」となっているか確認してください。（9ページ参照）

RequestIOに失敗しました.

/IOオプションで指定したI/Oポートアドレスを変更してください。
（【添付ドライバの詳細】(59ページ)参照）

RequestWindowに失敗しました.

/MEMオプションでメモリ空間の指定を変更してください。（【添付ドライバの詳細】(59ページ)参照）

《DUOATADD.SYS関連エラーメッセージ 》

CI-iCNが初期化されていません.

DUOATA16.SYSがインストールされてません。
DUOATA16.SYSのエラーメッセージをご確認ください。

有効なドライブが接続されていません.

本製品に接続したハードディスクが認識できません。本製品とハードディスクの接続を確認してください。また、ハードディスクの電源スイッチが入っているかも確認してください。

《DUOATACD.SYS関連エラーメッセージ》

オプションの記述が違います.

【添付ドライバの詳細】(59ページ)を参照して、オプションの記述が間違っていないか確認してください。

CI-iCNカードが初期化されていません.

DUOATA16.SYSがインストールされてません。
DUOATA16.SYSのエラーメッセージをご確認ください。

使用可能なドライブが接続されていません.

ドライブが認識できません。接続、パワースイッチおよびマスター／スレーブ切り替えスイッチを確認してください。

《MSCDEX.EXE関連エラーメッセージ》

Device driver not found: 'xxxxxxxx'
No valid CDROM device drivers selected

DUOATACD.SYSの/D:オプションで指定したデバイス名とMSCDEXの/D:オプションで指定したデバイス名を同じにしてください。

Not enough drive letters available

CONFIG.SYSでの 'LASTDRIVE=' の設定を 'Z' に変更します。
CONFIG.SYSにLASTDRIVE=の記述がない場合は、'LASTDRIVE=Z'の１行を追加してください。

ネットワークを使用している場合には、LASTDRIVEを変更すると、ネットワークドライブ名が変化するので、ご注意ください。

本製品を使ったWindows XPのセットアップ

ここでは、本製品に接続したCD-ROMドライブを使用してお使いのパソコンにWindows XPを新規にインストールする方法を説明します。



お使いのパソコンでWindows XPを使用するには、パソコンがWindows XPに対応している必要があります。(パソコンによっては、BIOSのアップデートが必要な場合があります。)
事前にパソコンメーカー等から提供されている情報で注意事項や制限事項を確認してください。その上で、本書をお読みになり、Windows XPのインストールを行ってください。

1 インストールに必要なものを用意します。

・Windows XP インストール CD
・Windows XP セットアップ起動ディスク
　マイクロソフト社ホームページからダウンロードして入手してください。
　⇒http://www.microsoft.com/japan/windowsxp/



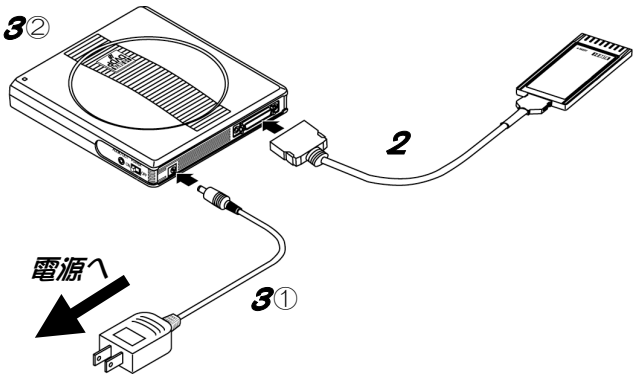
お持ちの「Windows XPインストールCD」と同じWindows XPを入手してください。
Home EditionとProfessionalを間違えてセットアップに使用すると、正常に動作いたしません。

・本 PC カード
・本 PC カードに接続可能な CD-ROM ドライブ
　本 PC カードに接続して使用します。

2 パソコンの電源をいったん切り、本製品に CD-ROM ドライブを接続します。

3 接続した CD-ROM ドライブの電源を「オン」にして、(①)
「Windows XP インストール CD」をセットします。(②)

▼接続図(一例)



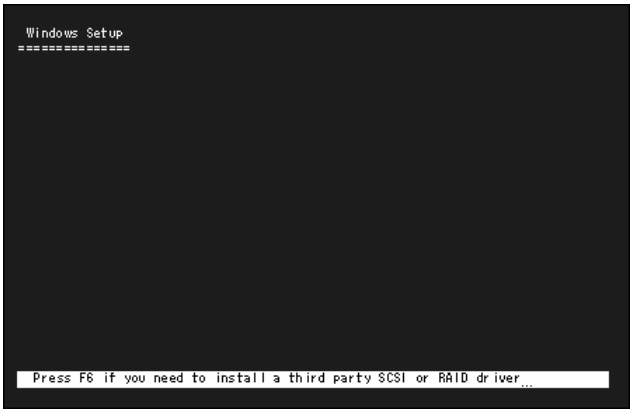
4 「Windows XP セットアップ起動ディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。

5 パソコン本体の電源を入れます。
しばらくすると、下記の画面が表示されます。

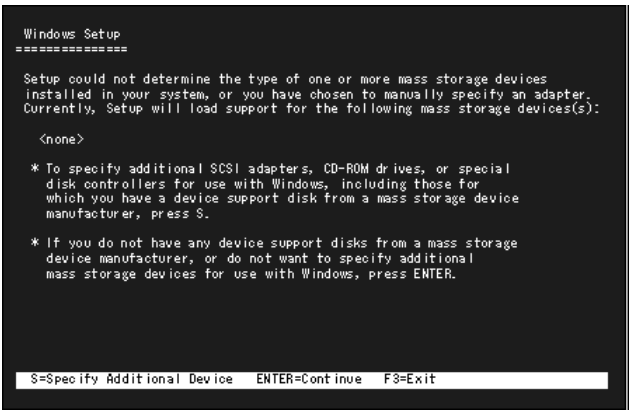


6 数秒間だけ下記の画面が表示されますので、
この画面が表示されている間に[F6]キーを押します。

［F6］を押しても、特に画面上の変化はありません。
次のフロッピーディスクを入れる指示が表示されましたら、
フロッピーディスクを入れ替えてください。



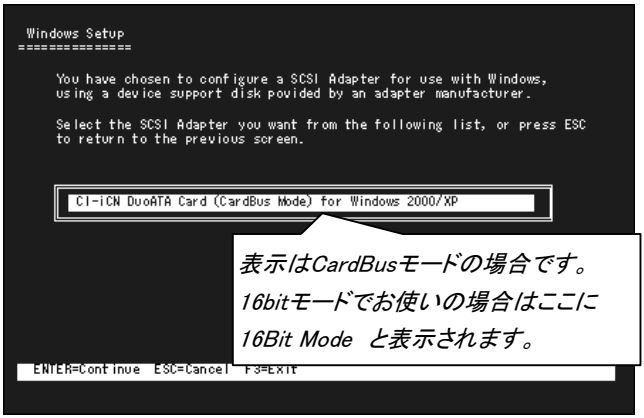
7 4 枚目の「Windows XP セットアップ起動ディスク」をセットしてしばらくすると、下記の画面が表示されます。
本製品のドライバソフトを読み込ませるために、[S]キーを押します。



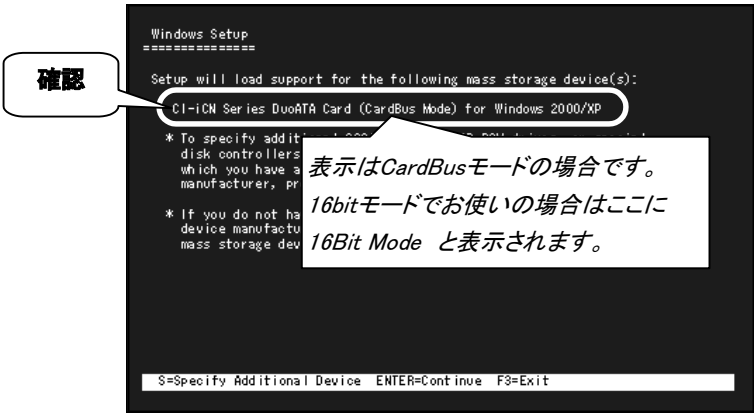
8 本 PC カードのサポートソフトをフロッピーディスクドライブにセットし、↵キーを押します。



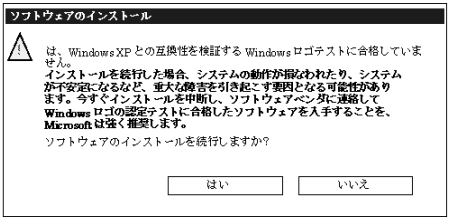
9 ↵キーを押します。

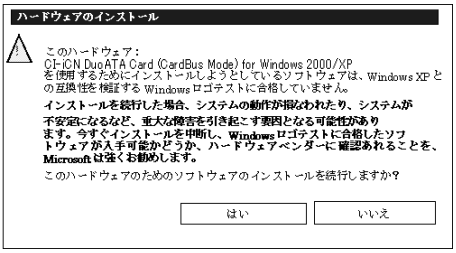


10 選択されたドライバの名称が表示されますので、
間違いがないことを確認し、↵キーを押します。
⇒セットアップを続行します。



11 セットアップ中に下記の画面が表示されますので、
[はい]ボタンをクリックします。





後は画面の指示に従って進めてください。

本製品を使ったWindows 2000のセットアップ

① 起動ディスクを使ってインストールする場合 ····· 下記
② Windows Me/98/95/NT 4.0から新規インストールする場合 ····· 94ページ
③ Windows Me/98/95からアップグレードする場合 ····· 94ページ
④ Windows NT 4.0からのアップグレードする場合 ····· 96ページ

①起動ディスクを使ってインストールする場合

1 **「セットアップ起動ディスク」を作成します。**
Windows 2000に添付のファーストステップガイドを参照し、セットアップ起動ディスクを作成してください。

2 **パソコンの電源をいったん切ります。**

3 **本製品にドライブを接続します。**

4 **本製品をパソコンのPCカードスロットに挿入します。**

5 **手順 *1* で作成した「セットアップ起動ディスク」をパソコンのフロッピーディスクドライブに挿入します。**

6 **パソコンの電源を入れて、「セットアップ起動ディスク」からパソコンを起動させます。**

7 **画面全体が青くなり、画面の下側に次の文字が表示されます。（数秒間だけ表示されます。）表示されている間に[F6]キーを１回押します。（FDの読み込みはそのまま進みます。）**
Press F6 if you need to install a thired party SCSI ...

8 **セットアップ起動ディスクのDisk.1、Disk.2の読み込みが終了すると、デバイスの追加を行う画面（画面の下側に次の文字が表示されます。）が表示されますので、[S]キーを押します。**
S=Specify Additional Device　ENTER=Continue　F3=Exit

9　以下のように表示されますので、「CI-iCNサポートソフト」をフロッピーディスクドライブにセットして[Enter]キーを押します。

セットアップ起動ディスクを使用している場合は、セットアップ起動ディスクを、サポートソフトディスクに入れ替えて[Enter]キーを押します。

Please insert the disk labeled.
Manufacture - supplied hardware support disk into Drive A:
* Press ENTER when Ready

10　設定した本製品に対応するドライバをカーソルキーで選び、[Enter]キーを押します。

次の表示を選択してください。
CI-iCN (CardBus Mode) の場合
「CI-iCN DuoATA Card(CardBus Mode) for Windows 2000/XP」
CI-iCN (16Bit Mode) の場合
「CI-iCN DuoATA Card(16Bit Mode) for Windows 2000/XP」

11　「Setup will load support for the following mass strage device(s)」と表示されます。その表示の下の行に手順 10 で選択したドライバ名が表示されていることを確認して[Enter]キーを押します。

12　セットアップ起動ディスクを使用している場合は、画面の指示にしたがってセットアップディスクNo.3、No.4をセットし[Enter]キーを押します。

サポートソフトが要求された場合は、サポートソフトを挿入して[Enter]キーを押してください。

以後画面の指示にしたがってインストールを行ってください。インストール中にパソコンの再起動が行われますのでその時はサポートソフトをフロッピーディスクドライブより抜いてください。

②Windows Me/98/95/NT 4.0から新規インストールする場合

1 Windows Me/98/95またはWindows NT 4.0を起動します。

2 Windows Me/98/95またはWindows NT 4.0で本製品に接続したドライブが使用できるようにします。

3 ドライブにWindows 2000のCD-ROMをセットします。

4 画面の指示に従い、「新規インストール」を選択します。

5 後は画面の指示に従ってください。

この後、インストール中にパソコンの再起動を行います。
再起動後、［Ｆ６］キーを押すように要求される画面が表示されます（数秒間だけ表示されます）ので、［Ｆ６］キーを押して、インストールを続行します。

※手順については、【①起動ディスクを使ってインストールする場合】(92ページ)の手順7以降を参照してください。

③Windows Me/98/95からアップグレードする場合

1 Windows Me/98/95を起動します。

2 Windows Me/98/95で本製品に接続したドライブが使用できるようにします。

3 ドライブにWindows 2000のCD-ROMをセットします。

4 画面の指示に従い、「アップグレードインストール」を選択します。

5　インストール中に以下の画面が表示されます。
サポートソフトをフロッピーディスクドライブに入れ、お使いのPCカードの表示を選択し、［ファイルの提供]ボタンをクリックします。

表示は以下のようになります。
CI-iCN（CardBus Mode）の場合
「CI-iCN DuoATA Card(CardBus Mode)」
CI-iCN（16Bit Mode）の場合
「CI-iCN DuoATA Card(16Bit ･･･)」

各文字列の後ろに「（現在は存在しない）」が表示される場合もあります。

他社製品をお使いの場合は、上記文字列以外に他社製品の文字列が表示される場合があります。

6　フロッピーディスクドライブの Win2000 フォルダを指定して［OK］ボタンをクリックします。

7　本製品の表示が消えたことを確認し、［次へ］ボタンをクリックします。

8　後は画面の指示に従ってください。

この後、インストール中にパソコンの再起動を行います。
再起動後、［Ｆ６］キーを押すように要求される画面が表示されます（数秒間だけ表示されます）ので、［Ｆ６］キーを押して、インストールを続行します。

※手順については、【①起動ディスクを使ってインストールする場合】(92ページ)の手順7以降を参照してください。

④Windows NT 4.0からアップグレードする場合

以下の手順を行うと、本製品のWindows NT 4.0用ドライバの削除が行われます。Windows 2000のインストール作業を中断すると、Windows NT 4.0再起動後にドライブが使用できなくなりますので、本製品のWindows NT 4.0用ドライバを再度、インストールし直してください。

1 **Windows NT 4.0を起動します。**

2 **Windows NT 4.0で本製品に接続したドライブが使用できるようにします。**

3 **[コントロールパネル]-[SCSIアダプタ]を開き、「ドライバ」タブをクリックします。**

4 **本製品のドライバを選択し、[削除]ボタンをクリックします。**
CI-iCN DuoATA Card (16Bit Mode)を選択します。

5 **[マイコンピュータ]を開きます。**

6 **[表示]メニューより[オプション]を選択します。**

7 **オプションウィンドウが表示されますので、[表示]タブをクリックします。**

8 **[ファイルの表示]で、[すべてのファイルを表示]を選択し、[OK]ボタンを押してください。**

9 **[スタート]ボタン-[検索]-[ファイルやフォルダ]を選択します。**

10 **検索の画面が表示されますので、次のように入力します。**

名前	*.inf
含まれる文字	CBIDE2NT
探す場所	（Windows NT 4.0をインストールしているドライブ名） Windows NT 4.0を C ドライブにインストールしている場合はC:

また「サブフォルダも探す」にチェックをつけて[検索開始]ボタンをクリックします。

11 **見つかったファイルを選択して[DEL]キーを押し、削除します。**

12 **[マイコンピュータ]から「サポートソフト」ディスク内のWin2000フォルダをダブルクリックします。**

13 **ドライブにWindows 2000のCD-ROMをセットします。**

14 **Uninst16.infファイル（セットアップ情報ファイル）を右クリックし、メニュー内の［インストール］をクリックして実行します。**

15 **画面の指示に従い、「アップグレードインストール」を選択します。**

16 **後は画面の指示に従ってください。**

この後、インストール中にパソコンの再起動を行います。
再起動後、［Ｆ６］キーを押すように要求される画面が表示されます（数秒間だけ表示されます）ので、［Ｆ６］キーを押して、インストールを続行します。

※手順については、【①起動ディスクを使ってインストールする場合】(92ページ)の手順7以降を参照してください。

本製品を使ったWindows Meのセットアップ

■Windows 98/95からのセットアップ

Windows 98/95上で本製品のドライバをインストールし、CD-ROMドライブが使用できる（本製品が正常に動作している）ことを確認後、Windows MeのCD-ROMをセットして、Windows Meのセットアップを画面の指示に従って実行します。

■MS-DOSからのセットアップ

MS-DOS上またはMS-DOSの起動ディスク上でCD-ROMドライブが使用できる（本製品が正常に動作している）ことを確認後※、Windows MeのCD-ROMをセットして、Windows Meのセットアップを画面の指示に従って実行します。

※正常に動作していない場合は、【Windows 3.1およびMS-DOS(PC DOS)でお使いの場合】(45ページ)を参照してください。

注意

MS-DOSからWindows Meのセットアップ後、【確認しよう】(24ページ)では本製品が正常に認識されていませんので、下記の手順でドライバの再インストールを行ってください。

1. **本製品をPCカードスロットから取り外します。**
   （【ドライブの電源を切る】28ページ参照）
2. **Windows Meを再起動します。**
3. **ドライバソフトをインストール後、本製品を接続します。**
   （【使えるようにしよう】16ページ参照）
4. **本製品が正常に認識されていることを確認します。**
   （【確認しよう】24ページ参照）

■Windows Meの起動ディスクからのセットアップ

起動ディスクのバックアップを作成してCD-ROMドライブを使用できる（本製品が正常に動作している）状態に設定後、Windows MeのCD-ROMをセットして、Windows Meのセットアップを画面の指示に従って実行します。

注意

Windows Meの起動ディスクからWindows Meのセットアップ後、【確認しよう】(24ページ)では本製品が正常に認識されていませんので、上記【■MS-DOSからのセットアップ】の「注意」内の手順でドライバの再インストールが必要です。

参照

下記手順は、CD-ROMドライブを使用できる状態にする設定例です。

1 **1.44MBでフォーマット済みの空きのフロッピーディスク(3.5インチ2HD)を1枚用意し、起動ディスクのバックアップを作成します。**

2 **手順 1で作成した起動ディスクに、本製品サポートソフトの[DOS]フォルダにある下記の2つのファイルをコピーします。**

DUOATAPE.SYS、DUOATACD.SYS

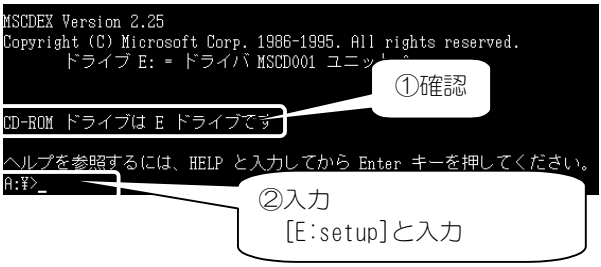
3 **起動ディスク内の[CONFIG.SYS]を開き、[CD]セクションに下記のように追記します。**

```
[CD]
  :
  :
device=duoatape.sys ↵
device=duoatacd.sys /d:mscd001 ↵
  :
  :
```

4 **起動ディスクをセットした状態で、パソコンを再起動します。**

5 **メニュー画面が表示されたら、[2.Start Computer with CD-ROM Support]を選択して↵を押します。**

6 **しばらくして下記の画面が表示されたら、お使いのパソコンのCD-ROMドライブ名を確認し、Windows MeのCD-ROMをCD-ROMドライブにセット後、[(CD-ROMドライブ名):setup]と入力して↵を押します。**



7 **以降、画面の指示に従ってWindows Meのセットアップを実行します。**

本製品を使ったWindows 98のセットアップ

1 パソコン（MS-DOS, PC DOS）起動後、パソコン本体付属のカードサービスなどのPCカードドライバをインストールします。
PCカードドライバについては各パソコンメーカーにお問い合わせください。

2 【使えるようにしよう】（46ページ）を参照して、本製品のMS-DOS用ドライバをインストールします。

3 インストール後、パソコンを一度再起動します。

4 ドライブにWindows 98のCD-ROMをセットし、Windows 98をインストールします。

5 Windows 98のインストール中に“PCカード(PCMCIA)ウィザード”が起動された場合、「はい」を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

6 “このデバイスのドライバをインストールするには、次の一覧からデバイスを選んでください。”と表示されますので、「ハードディスクコントローラ」を選択し、［次へ］ボタンをクリックします。

7 “ハードウェアの製造元とモデルを選んでください。”と表示されますので、「CI-iCNサポートソフト」をフロッピーディスクドライブに入れ、［ディスク使用］ボタンをクリックします。

8 **“配布ファイルのコピー元”にフロッピーディスクドライブのドライバのあるフォルダを入力し、［OK］ボタンをクリックします。**

PC98-NXシリーズ及びDOS/Vマシンの場合

▼(フロッピーディスクドライブがAドライブの場合)

A:¥WIN9X¥16BIT¥DOSV

PC-9821シリーズの場合

▼(フロッピーディスクドライブがCドライブの場合)

C:¥WIN9X¥16BIT¥PC98

9 **[次へ]ボタンをクリックします。**

10 **「インストール中のデバイスはプラグアンドプレイに対応しています。」の画面では、[次へ]ボタンをクリックします。**

11 **[完了]ボタンをクリックします。**

12 **「システムファイルを確認して、Windowsが使用不可にするリアルモードPCカードドライバを選びますか?」と表示されます。「いいえ」を選択し、［次へ］ボタンをクリックします。**

13 **[完了]をクリックし、「CI-iCNサポートソフト」を抜いて、再起動してください。**

以上で、インストールは終了です。
この後、Windows 98上で本製品を使用する場合は、再度【使えるようにしよう】16ページからご覧ください。

本製品を使ったWindows 95のセットアップ

1 **パソコン（MS-DOS,PC DOS）起動後、パソコン本体付属のカードサービスなどのPCカードドライバをインストールします。**
PCカードドライバについては各パソコンメーカーにお問い合わせください。

2 **【使えるようにしよう】（46ページ）を参照して、本製品のMS-DOS用ドライバをインストールします。**

3 **インストール後、パソコンを一度再起動します。**

4 **ドライブにWindows 95のCD-ROMをセットし、Windows 95をインストールします。**

5 **Windows 95インストール終了後、PCMCIAドライバを 32ビットへ切り替える為、[コントロールパネル]の[PCカード]アイコンをダブルクリックしてください。**
→[PCカード(PCMCIA)ウィザード]が起動します。

6 **「PCカードをWindowsのインストールに使っていますか？」で「いいえ」を選択し、［次へ］ボタンをクリックしてください。**

7 **「PCカードドライバが見つかりました。使用不可にできます。」と表示されます。「いいえ」を選択し、［次へ］ボタンをクリックしてください。**

8 **「PCカードウィザードが完了しました。」と表示されますので、［完了］ボタンをクリックしてください。**

9 **「コンピュータを終了しますか?」と表示されますので、[はい]ボタンをクリックしてください。しばらくするとコンピュータの電源が切れる状態となります。**
以上で32ビットPCMCIAドライバの設定は終了です。

10 **パソコンの電源をOFFにします。**
本製品をPCカードスロットから取り外します。

以上で、インストールは終了です。
この後、Windows 95上で本製品を使用する場合は、再度【使えるようにしよう】16ページからご覧ください。

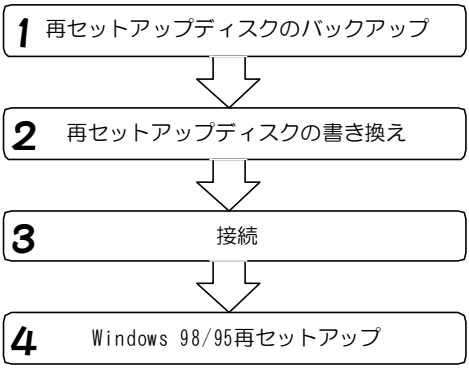
参考

機種別の本製品を使ったWindows 98/95再セットアップ

本製品に接続したCD-ROM読み取り可能なドライブ［CD-ROM,CD-R/RW,DVD-ROMドライブ(以降CD-ROMドライブ)］によるWindows 98/95の再セットアップ方法を、いくつかの機種を例に上げて説明しています。

・ここでは、Windows 98/95上で再セットアップディスクの作成を行った後に、再セットアップを行う方法を説明しています。
必ず、Windows 98/95が稼動する状態で作業を行ってください。
・再セットアップディスクの書き換えを行う場合には、必ず再セットアップディスクのバックアップをとり、以後作成したバックアップディスクをお使いください。（バックアップ方法についてはP3参照）
・本製品を再セットアップ目的で使用される場合は、必ずカード側面のスイッチを16bitモードにしてご使用ください。
CardBusモードで使用する場合は、再セットアップ後に【使えるようにしよう】(16ページ)を参照し、CardBusモード用のドライバをインストールし直してください。

以下のような流れでWindows 98/95の再セットアップを行います。
１、２の作業はWindows 98/95が動作する状態で行ってください。



もくじ

●バックアップの取り方 １０６
●Panasonic １０７
- Let's note CF-S21J8,CF-S21J5,CF-M32J8,CF-M32J5 ..... １０７
- Let's note CF-S51V,CF-A1V １０９

●NEC １１１
- LaVie NX LW20/4DA, LW20/42A, LW23/43C, LW20/42C, LW20/4DC,LB20/40A,LT23/44A １１１

●SHARP １１３
- Mebius PC-PJ1, PC-PJ1-98,PC-PJ1-M2, PC-PJ1-M3,PC-PJ2-S2,PC-PJ2-S3,PC-PJ2-X3 ..... １１３

●日本IBM １１５
- ThinkPad 235（モデル 2607-10J） １１５
- ThinkPad 240（モデル 2609-21J） １１８
- ThinkPad 310E（モデル 2600-E0J） １２１
- ThinkPad 560Z（モデル 2640-9YJ） １２４

●東芝 １２７
- DynaBookSS 3380 ..... １２７

●SONY １２９
- VAIO PCG-505, PCG-505X, PCG-505EX, PCG-505G, PCG-505GX, PCG-505R, PCG-505RS, PCG-505RX, PCG-C1 ..... １２９
- VAIO PCG-505S,PCG-505SX, PCG-Z505D, PCG-Z505DX, PCG-505V, PCG-505V/ABX, PCG-Z505F, PCG-Z505FX, PCG-N505, PCG-N505SR, PCG-N505ES, PCG-N505EL, PCG-Z505JL, PCG-Z505JX, PCG-C1R,PCG-C1S,PCG-C1XE,PCG-C2GPS １３１

●作業例にない機種 １３２

《参考》
「CI-iCNサポートソフト」には“INSTFD.EXE”を添付しています。本製品にCD-ROMドライブを接続し、“INSTFD.EXE”を使用すれば、OSの再セットアップを行う際に必要な起動ディスクを簡単に作成する事ができます。
再セットアップ時には、再セットアップディスクの内容に応じて必要なドライバをコピーし、CONFIG.SYS,AUTOEXEC.BATを書き換えます。“INSTFD.EXE”を実行後、CONFIG.SYS,AUTOEXEC.BATに若干の変更が必要な場合があります。

バックアップの取り方

再セットアップ作業に使用する起動ディスクなどは必ずバックアップを取り、
バックアップディスクの方を実行用ディスクとしてご使用ください。
（以下の例は、フロッピーディスクドライブがAドライブの場合です。）

1 フォーマット済みの空きフロッピーディスクを用意します。

2 コピーしたいフロッピーディスクを書き込み禁止にします。

3 コピーしたいフロッピーディスクをパソコンに挿入します。

4 ［ディスクのコピー］を行います。

［マイコンピュータ］内の［3.5インチFD］アイコンを右クリックし、表示されたメニューから「ディスクのコピー」をクリックします。

5 ［開始］ボタンをクリックします。



6 メッセージにしたがって、バックアップを取ります。

コピーしたいフロッピーディスクと空きフロッピーディスクをメッセージにしたがって入れ替えながら、バックアップを取ります。

Panasonic

Let's note CF-S21J8,CF-S21J5,CF-M32J8,CF-M32J5

再セットアップを行うには、「**ファーストエイドFD**」と「**CD-ROMセットアップ起動ディスク**」が必要です。
作成方法についてはパソコンの取扱説明書を参照してください。
また、「**ファーストエイドFD**」と「**CD-ROMセットアップ起動ディスク**」はバックアップをとり、バックアップディスクをお使いください。
バックアップの取り方については、【バックアップの取り方】（前ページ）を参照してください。

①パソコンにフロッピーディスクドライブを接続します。
②「**CD-ROMセットアップ起動ディスク**」を書き込み可能な状態にして、フロッピーディスクドライブに挿入します。
その後、パソコンの電源を入れます。
③画面のメッセージに従って、“**3.**その他の**CD-ROM**ドライブ”を選択します。
④**MS-DOS**のプロンプト（**A:¥**）が表示されたら、フロッピーディスクドライブから「**CD-ROMセットアップ起動ディスク**」を抜き、[Alt]+[Ctrl]+[Delete]を押して再起動します。
⑤**Windows 98/95**が起動したら、フロッピーディスクドライブに「**CD-ROMセットアップ起動ディスク**」を挿入します。
⑥[スタート]→[プログラム]→[**MS-DOS**プロンプト]を起動します。
以下のコマンドを入力し、「**CD-ROMセットアップ起動ディスク**」内の一部のファイルを削除します。

```
DEL A:¥LF1500¥*.SYS
```

⑦フロッピーディスクドライブから「**CD-ROMセットアップ起動ディスク**」を抜き、「**CI-iCNサポートソフト**」を挿入します。
⑧［マイコンピュータ］→［**3.5**インチ**FD**］→［**DOS**］→［**INSTFD**］を起動します。
⑨画面の指示に従って、「**CD-ROMセットアップ起動ディスク**」にデバイスドライバを組み込みます。
⑩ **INSTFD**が終了したら、**MS-DOS**プロンプトを閉じます。
⑪フロッピーディスクドライブから「**CD-ROMセットアップ起動ディスク**」を抜きます。

⑫**Windows 98/95**を「コンピュータの電源を切れる状態にする」で終了し、一度パソコンの電源を切ってください。

これで再セットアップ用「**CD-ROMセットアップ起動ディスク**」が作成されました。

CD-ROMドライブを接続した本製品(モードスイッチを16bitモードに設定したもの)を、パソコンに接続してください。

以降は**パソコンの取扱説明書**をご覧になり、再セットアップを行ってください。

・Windows 98の再セットアップ時のモードはAPM(Advanced Power Management)モードをお使いください。設定の方法などについてはパソコンの取扱説明書をご覧ください。
・再セットアップの途中で“新しいハードウェアの追加ウィザード”が表示されたら、以下の手順に従ってください。
① “ハードディスクコントローラ”を選択し、［次へ］ボタンをクリックします。
② ［ディスク使用］ボタンをクリックします。
③ フロッピーディスクドライブに、「CI-iCNサポートソフト」を挿入し、“配布ファイルのコピー元“を以下のように指定します。
A:¥WIN9X¥16BIT¥DOSV
(例:フロッピーディスクドライブがAの場合)
④ “CI-iCN DuoATA Card(16Bit Mode) for DOS/V”を選択し、［次へ］ボタンをクリックします。
⑤ ［次へ］ボタンをクリックし、もう一度［次へ］ボタンをクリックします。
⑥ ［完了］ボタンをクリックしてください。
これで、本製品用のドライバ(16bitモード)がインストールされました。

Let's note CF-S51V, CF-A1V

再セットアップを行うには、「**ファーストエイドFD**」と「**アップデートFD**」が必要です。
作成方法についてはパソコンの取扱説明書を参照してください。
また、「**ファーストエイドFD**」と「**アップデートFD**」はバックアップをとり、バックアップディスクをお使いください。
バックアップの取り方については、**【バックアップの取り方】（106ページ）を参照してください。**

① Windowsの終了を行い、コンピュータの電源を切ります。
② パソコンにフロッピーディスクドライブを接続します。
③ 「ファーストエイドＦＤ」を書き込み可能な状態にして、フロッピーディスクドライブに挿入します。
④ コンピュータの電源を入れます。
⑤ CD-ROMドライブの選択画面が表示されますので、画面のメッセージに従って、「その他のＣＤ－ＲＯＭドライブ」の番号を選択してください。

例）以下のように表示されている場合、９を入力します。

１．ＫＸＬ－ｘｘｘ
２．ＫＸＬ－ｘｘｘ
：
９．その他のＣＤ－ＲＯＭドライブ

「CD-ROM ドライブが見つかりません。
再インストールを終了します。」
というメッセージが出た場合

「A:¥>」プロンプトに続けて「¥tools¥seldrv」と入力して↵を押してください。
CD-ROM ドライブの選択画面が表示されます。

⑥ MS-DOS プロンプト(A:¥>)が表示されたら、フロッピーディスクドライブから、「ファーストエイドＦＤ」を抜き、[Alt]+[Ctrl]+[Delete] を押して、再起動します。

⑦ Windows 98 が起動したら、フロッピーディスクドライブに「ファーストエイドＦＤ」を挿入します。

⑧ [スタート]→[プログラム]→[**MS-DOS**プロンプト]を起動します。
以下のコマンドを入力し、「ファーストエイドＦＤ」内の一部のファイルを削除します。以下の1行を入力後↵を押してください。

```
DEL A:¥LF1500¥*.SYS
```

⑨ フロッピーディスクドライブから「ファーストエイドＦＤ」を抜き、「CI-iCN サポートソフト」を挿入します。

⑩ [マイコンピュータ]→[3.5インチFD]→[DOS]→[INSTFD]を起動します。

⑪ 画面の指示に従って、「ファーストエイドＦＤ」にデバイスドライバを組み込みます。

⑫ INSTFD が終了したら、MS-DOS プロンプトを閉じます。

⑬ フロッピーディスクドライブから、「ファーストエイドＦＤ」を抜きます。

⑭ Windows 98 を〝電源を切れる状態にする〟で終了し、コンピュータの電源を切ってください。

⑮ これで再セットアップ用の「ファーストエイドＦＤ」が作成されました。

CD-ROMドライブを接続した本製品(モードスイッチを16bitモードに設定したもの)を、パソコンに接続してください。

以降はパソコンの取扱説明書をご覧になり、再セットアップを行ってください。

NEC

LaVie NX	**LW20/4DA, LW20/42A, LW23/43C, LW20/42C,LW20/4DC, LB20/40A,LT23/44A**

再セットアップを行うには、「**システムインストールディスク（起動用）**」が必要です。
また、「**システムインストールディスク（起動用）**」はバックアップをとり、バックアップディスクをお使いください。
バックアップの取り方については、【バックアップの取り方】（106ページ）を参照してください。

①パソコンの電源を入れてください。**Windows 98/95**が起動しましたら、
フロッピーディスクドライブに「**CI-iCNサポートソフト**」を挿入します。
②［マイコンピュータ］→［**3.5**インチ**FD**］→［**DOS**］→［**INSTFD**］を起動します。
③画面の指示に従って、「**システムインストールディスク（起動用）**」にデバイスドライバを組み込みます。
④ **INSTFD**が終了したら、**MS-DOS**プロンプトウィンドウを閉じます。
⑤［スタート］ボタンを右クリックし、表示されたメニューから［エクスプローラ］をクリックしてください。エクスプローラが起動します。
⑥「**システムインストールディスク（起動用）**」内の**CONFIG.SYS**を編集します。

［エクスプローラ］の［表示］→［フォルダオプション］（［オプション］）内の、“ファイルの表示”を“すべてのファイルを表示”にしてください。

6-1　**CONFIG.SYS**を右クリックし、表示されたメニューから［アプリケーションから開く］をクリックします。

6-2　“この種類のファイルを開く時は、いつもこのアプリケーションを使う”がチェックされていないことを確認し、“このﾌｧｲﾙを開くｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝ”に**Notepad**を選択し、［**OK**］ボタンを押してください。

6-3　**CONFIG.SYS**の以下の部分を書き換えてください。**（REMを追加）**

REM DEVICE=A:¥RAMDRIVE.SYS 4096 /E

⑦「**システムインストールディスク（起動用）**」内の**AUTOEXEC.BAT**を編集します。

7-1 **AUTOEXEC.BAT**を右クリックし、［編集］をクリックします。

7-2 “**@ECHO OFF**”**以外**の全ての行を消してください。

7-3 “**@ECHO OFF**”以降に、以下の３行を書き加えてください。

```
A:¥SMARTDRV  /X
A:¥CDROM¥MSCDEX.EXE  /D:ATACD001  /L:Q
A:¥SYSRESTV
```

⑧フロッピーディスクドライブから「**システムインストールディスク（起動用）**」を抜きます。

⑨**Windows 98/95**を「コンピュータの電源を切れる状態にする」で終了し、一度パソコンの電源を切ります。

これで再セットアップ用の「**システムインストールディスク（起動用）**」が作成されました。

-再セットアップ手順-

1 本製品のスイッチを“**16bit**モード”にして**CD-ROM**ドライブを接続し、パソコンに接続します。

2 フロッピーディスクドライブに「**システムインストールディスク（起動用）**」を挿入します。

3 パソコンの電源を入れてください。本製品と**CD-ROM**ドライブが認識され、再セットアッププログラムが起動します。

4 冊子「困った時の**Q&A**」を参照しながら、画面の表示に従って、再セットアップを行います。

5 再セットアップが終わりましたら、本製品を抜き、パソコンを再起動してください。

SHARP

Mebius PC-PJ1, PC-PJ1-98, PC-PJ1-M2,PC-PJ1-M3,PC-PJ2-S2,PC-PJ2-S3, PC-PJ2-X3

再セットアップを行うには、「**リカバリCD用起動ディスク**」が必要です。
また、「**リカバリCD用起動ディスク**」はバックアップをとり、バックアップディスクをお使いください。
バックアップの取り方については、【バックアップの取り方】(106ページ)を参照してください。

《参考》
「**再インストール説明書**」に従って、作業を進めてください。“**再インストール用の起動ディスクを作成する**”まで進みましたら、以下を参照して、作業を進めてください。

◆CD-ROMドライブのドライバを「**2HDのフロッピーディスク**」にコピーする際、以下のように作業を置き換えてください。

・「**CD-ROM**ドライバディスク」の代わりに、「**CI-iCNサポートソフト**」をフロッピーディスクドライブにセットしてください。

・コピーするドライバは２つです。以下を入力し、表示される画面の指示に従ってください。

```
COPY DOS¥DUOATA16.SYS B:↵
COPY DOS¥DUOATACD.SYS B:↵
```

・［**USER**］の項目の「**REM** ここにお使いの**CD-ROM**デバイス名を記入してください。」の下に、以下のように記入してください。

```
DEVICE=A:¥DUOATA16.SYS
DEVICE=A:¥DUOATACD.SYS  /D:PCMCIACD
```

・**CONFIG.SYS**ファイルの編集が終わったら、
EDIT AUTOEXEC.BATと入力し、↵キーを押してください。
“:**USER**”の項目の「REM MSCDEX.EXE /D:ここにお使いのCD-ROMデバイス名を記入してください。/L:R」の下に、以下のように記入してください。

MSCDEX.EXE /D:PCMCIACD /L:R

◆再起動後に「**Microsoft Windows 98 Startup Menu**」が表示されたら、
“**3. USER SETTING**”を選択して、↵キーを押してください。

以降は「**再インストール説明書**」に従って、作業を進めてください。
再インストール時は、必ず本製品カード側面のスイッチを16bitモードにしてご使用ください。

「再インストール用起動ディスク」を取り出す際には、本製品をPCカードスロットから取り出してください。

日本IBM

ThinkPad 235（モデル 2607-10J）

再セットアップを行うには、「Recovery CD-ROM Boot Diskette」が必要です。
また、「Recovery CD-ROM Boot Diskette」はバックアップをとり、バックアップディスクをお使いください。
バックアップの取り方については、【バックアップの取り方】（106ページ）を参照してください。

① Windows 98を起動します。
② フロッピーディスクドライブに「**CI-iCNサポートソフト**」を挿入します。
③ [スタート]ボタンを右クリックし、表示されたメニューから[エクスプローラ]をクリックしてください。エクスプローラが起動します。
④ 任意のドライブ（ハードディスク等）に“**CI-iCN**”フォルダを作成します。
⑤ 「**CI-iCNサポートソフト**」のDOSフォルダ内にある
・DUOATA16.SYS、DUOATACD.SYS
を④で作成した“**CI-iCN**”フォルダへコピーします。

[エクスプローラ]の[表示]→[フォルダオプション]（[オプション]）内の、“ファイルの表示”を“すべてのファイルを表示”にしてください。

⑥ フロッピーディスクドライブから「**CI-iCNサポートソフト**」を抜き、「**Recovery CD-ROM Boot Diskette**」を挿入します。
⑦ ④で作成した“**CI-iCN**”フォルダ内のファイルを「**Recovery CD-ROM Boot Diskette**」のルートフォルダへコピーします。
⑧ 「**Recovery CD-ROM Boot Diskette**」内のDRVLOAD.BATを編集します。
8-1　DRVLOAD.BATを右クリックし、表示されたメニューから［編集］をクリックします。

8-2　DRVLOAD.BATの":OBI" で始まる項目を以下のように書き換えてください。

```
:OBI
rem IBM PCMCIA CD-ROM 20x
@loadhigh %1dynaload %1CARDXTND.SYS >NUL
----------------------------（途中省略）-----------------------------
rem ************************************************************************
rem   Please modify 2 lines below this statement to use your own PCMCIA
rem   external CD-ROM drvie other than listed default CD-ROM drives.
rem ************************************************************************
REM @loadhigh %1dynaload %1PCMCD20X.SYS /I:9 /P:260 /D:PCMCD001 >NUL   (REM追加)
@loadhigh %1dynaload %DUOATA16.SYS >NUL                               (1行追加)
@loadhigh %1dynaload %DUOATACD.SYS /D:PCMCD001 >NUL                   (1行追加)
@call %1MSCDEX /D:PCMCD001 /L:Z >NUL

@if errorlevel 1 goto ERROR
@call sleep 5
@goto exit

:OBI2
rem IBM PCMCIA CD-ROM 4x
```

必ず“:OBI”の項目に追加してください。

⑨「**Recovery CD-ROM Boot Diskette**」内の**MSGJP.DAT**を編集します。

9-1　**MSGJP.DAT**を右クリックし、表示されたメニューから［アプリケーションから開く］をクリックします。

9-2　″この種類のファイルを開くときは，いつもこのアプリケーションを使う″がチェックされていないことを確認し、″このファイルを開くアプリケーション″に**Notepad**を選択し、［**OK**］ボタンを押してください。

9-3　**MSGJP.DAT**内［**AMethods**］ 項目の、

IBMPCMCD　= ″IBM PCMCIA 20x CD-ROM drive″　の行を、

IBMPCMCD　= ″I-O DATA CI-iCN″

に書き換えてください。（以下参照）

```
[AMethods]
Internal   = ″Panasonic PCMCIA 20X CD-ROM (KXL-808AN)″
Internal2  = ″Hot Swap″
IBMCDROM   = ″IBM external CD-ROM  (Non-PCMCIA)″
rem
IBMPCMCD   = ″I-O DATA CI-iCN″      （書き換え）
Disctec    = ″Disctec parallel port CD-ROM″
```

⑩ **Windows 98**を“コンピュータの電源を切れる状態にする”で終了し、パソコンの電源を切ります。

⑪ **CD-ROM**ドライブを接続した本製品(モードスイッチを16bitモードに設定したもの)を、パソコンに接続してください。

⑫ 装置構成ユーティリティの設定を行います。

12-1 パソコンを起動し、次のメッセージが画面の左上に表示されているときにキーボードの［**F1**］ キーを押します。

Press F1 for Configuration/SETUP

装置構成ユーティリティのメニュー画面が表示されます。

12-2 “デフォルトの設定をロードする”を選択し、↵キーを押します。

12-3 ↵キーを押してデフォルトの設定をロードします。

12-4 “装置構成ユーティリティの終了”を選択し、↵キーを押します。

12-5 “設定を変更して終了する”を選択し、↵キーを押します。

装置構成ユーティリティが終了します。

以降は、「IBM ThinkPad 235 リカバリーCD-ROMの使い方」に従って、作業を進めてください。

◆次のメッセージ

CD-ROM Access Method:

□Panasonic PCMCIA 20X CD-ROM (KXL-808AN)

□I-O DATA CI-iCN

□IBM PCMCIA 4x CD-ROM drive

が画面の左上に表示されましたら、″I-O DATA CI-iCN″ の左側にある″□″をクリックして赤いマークをつけ、画面下部の［**Next**］ボタンをクリックしてください。

ThinkPad 240（モデル 2609-21J）

再セットアップを行なうには 「Recovery CD-ROM Boot Diskette」が必要です。
また、「Recovery CD-ROM Boot Diskette」はバックアップをとり、バックアップディスクをお使いください。
バックアップの取り方については、【バックアップの取り方】(106ページ)を参照してください。

① Windows 98 を起動します。
② フロッピーディスクドライブに「CI-iCNサポートソフト」を挿入してください。
③ [スタート]ボタンを右クリックし、表示されたメニューから[エクスプローラ]をクリックしてください。エクスプローラが起動します。
④ 任意のハードディスクなどに ″CI-iCN″フォルダを作成してください。
⑤「CI-iCNサポートソフト」のDOSフォルダ内にある

- **DUOATA16.SYS**
- **DUOATACD.SYS**

を、④で作成した ″CI-iCN″ フォルダへコピーします。

[エクスプローラ]の[表示]→[フォルダオプション]（[オプション]）内の、“ファイルの表示”を“すべてのファイルを表示”にしてください。

⑥フロッピーディスクドライブから「CI-iCNサポートソフト」を抜き、「Recovery CD-ROM Boot Diskette」を挿入してください。
⑦ ④で作成した ″CI-iCN″ フォルダ内のファイルを「Recovery CD-ROM Boot Diskette」のbinフォルダ(例 A:¥bin)へコピーしてください。
⑧「Recovery CD-ROM Boot Diskette」内の ¥bin¥dosk.bat を編集します。

8-1 [スタート]ボタンを右クリックし、表示されたメニューから[エクスプローラ]をクリックしてください。エクスプローラが起動します。
8-2 [3.5インチFD(A:)]をダブルクリックし、bin フォルダをダブルクリックします。
8-3 dosk.bat を右クリックし、[編集]をクリックします。

8-4 dosk.bat の ″:OBI″ で始まる項目を以下のように書き換えてください。

```
:OBI
REM IBM PCMCIA CD-ROM 20x
REM dynaload ¥BIN¥PCMCD20X.SYS /I:10 /P:240 /D:PCMCD001      (REM追加)
dynaload ¥BIN¥DUOATA16.SYS /V                                (1行追加)
dynaload ¥BIN¥DUOATACD.SYS /D:PCMCD001 >NUL                  (1行追加)
LOADHIGH ¥BIN¥MSCDEX.EXE /D:PCMCD001 /M:15 /L:Z
if errorlevel 1 goto ERROR
goto Complete

:OBI2
rem CNF PCMCIA CD-ROM 2x
```

必ず、″:OBI″ の項目に追加してください。

⑨ Windows 98 を″コンピュータから電源を切れる状態にする″で終了し、
パソコンの電源を切ってください。

⑩ **CD-ROM**ドライブを接続した本製品(モードスイッチを16bitモードに設定したもの)を、パソコンに接続してください。

⑪ BIOS セットアップ・ユーティリティの設定を行ないます。

11-1 ThinkPad の電源をオンにし、IBM ThinkPad ロゴが表示されている間(画面右下に Press F1 for BIOS Setup Utility が表示されている間)に、[F1] キーを押してください。
IBM BIOS Setup Utility メニュー画面が表示されます。

11-2 デフォルトの設定をロードします。
「F9」キーを押してください。
以下のメッセージが表示されますので、[Yes] が選択されていることを確認し、↵キーを押してください。

Setup Confirmation
Load Default Configuration now? [Yes]　　No

11-3 設定内容を保存して BIOS セットアップを終了します。
「F10」キーを押してください。
以下のメッセージが表示されますので、[Yes] が選択されていることを確認し、↵キーを押してください。
IBM BIOS Setup Utility が終了します。

Setup Confirmation
Save Configuration changes and exit now? [Yes]　　No

以降は「IBM ThinkPad Product Recovery CD-ROM」に従って、作業を進めてください。

◆次のメッセージ

IBM Portable CD-ROM Drive CD-20X
CNF Portable CD-ROM XA Drive 2X
Panasonic 783 Protable PCMCIA CD-ROM 783

が画面の左上に表示されましたら、
"IBM Portable CD-ROM Drive CD-20X" を選択して、↵キーを押してください。

ThinkPad 310E（モデル 2600-E0J）

再セットアップを行うには、「**Windows 95 始動用ディスケット**」が必要です。
また、「**Windows 95 始動用ディスケット**」はバックアップをとり、バックアップディスクをお使いください。
バックアップの取り方については、【バックアップの取り方】（106ページ）を参照してください。

① **Windows 95**を起動します。
② フロッピーディスクドライブに「**CI-iCNサポートソフト**」を挿入します。
③ [スタート]ボタンを右クリックし、表示されたメニューから[エクスプローラ]をクリックしてください。エクスプローラが起動します。
④ 任意のドライブ（ハードディスク等）に“**CI-iCN**”フォルダを作成します。
⑤ 「**CI-iCNサポートソフト**」の**DOS**フォルダ内にある
- **DUOATA16.SYS**
- **DUOATACD.SYS**

を④で作成した“**CI-iCN**”フォルダへコピーします。

[エクスプローラ]の[表示]→[フォルダオプション]（[オプション]）内の、“ファイルの表示”を“すべてのファイルを表示”にしてください。

⑥ フロッピーディスクドライブから「**CI-iCNサポートソフト**」を抜き、「**Windows 95 始動用ディスケット**」を挿入します。
⑦ ④で作成した“**CI-iCN**”フォルダ内のファイルを「**Windows 95 始動用ディスケット**」のルートフォルダへコピーします。
⑧ 「**Windows 95 始動用ディスケット**」内の**CONFIG.SYS**を編集します。

8-1 **CONFIG.SYS**を右クリックし、表示されたメニューから［アプリケーションから開く］をクリックします。

8-2 “この種類のファイルを開く時は、いつもこのアプリケーションを使う”がチェックされていないことを確認し、“このファイルを開くアプリケーション”に**Notepad**を選択し、［**OK**］ボタンを押します。

8-3　CONFIG.SYSを以下のように書き換えてください。

```
MENUITEM=CD2OX,  IBM  CD-ROM  Drive  CD-2OX
MENUITEM=CliCN,  I-O  DATA  Cl-iCN                （１行追加）
MENUCOLOR=2,0
----------（途中省略）----------
[CD2OX]
SET  PCMPLUS=A:¥
[CliCN]                （1行追加）
```

⑨ 「**Windows 95 始動用ディスケット**」内の**AUTOEXEC.BAT**を編集します。

9-1　AUTOEXEC.BATを右クリックし、［編集］をクリックします。

9-2　AUTOEXEC.BATを以下のように書き換えてください。

```
a:¥Sleep 3
goto END
```

（以降追加）

```
:CliCN
LH PCMSS.EXE
LH PCMCS95.EXE
LH ADDDRV CDATA.SYS
LH MSCDEX /D:ATACD001
A:¥SLEEP 3
GOTO END
```

⑩ 「**Windows 95 始動用ディスケット**」内（ルートフォルダ）に新規ファイル **CDATA.SYS**を作成・編集します。

10-1 ［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［メモ帳］を起動します。

10-2 以下の2行を入力します。

```
DEVICE=A:¥DUOATA16.SYS
DEVICE=A:¥DUOATACD.SYS /D:ATACD001
```
（2行追加）

10-3 メモ帳の［ファイル(F)］→［名前を付けて保存(A)...］をクリックします。

表示された画面で“ファイル名”に

A:¥CDATA.SYS

と入力し、［保存］ボタンをクリックしてください。

⑪ **Windows 95**を“コンピュータの電源を切れる状態にする”で終了し、パソコンの電源を切ります。

⑫ **CD-ROM**ドライブを接続した本製品（モードスイッチを16bitモードに設定したもの）を、パソコンに接続してください。

以降は「バックアップCD-ROMについて」に従って、作業を進めてください。

◆「**Microsoft Windows 95 Setup Menu**」では「**4. I-O DATA CI-iCN**」を選択してください。

◆「コピー完了」の画面が表示されたら、本製品を抜いてください。

ThinkPad 560Z（モデル 2640-9YJ）

再セットアップを行うには、「Recovery CD-ROM Boot Diskette」が必要です。
また「Recovery CD-ROM Boot Diskette」はバックアップをとり、バックアップディスクをお使いください。
バックアップの取り方については、【バックアップの取り方】(106ページ)を参照してください。

① Windows 98を起動します。
② フロッピーディスクドライブに「**CI-iCNサポートソフト**」を挿入します。
③ [スタート]ボタンを右クリックし、表示されたメニューから[エクスプローラ]をクリックしてください。エクスプローラが起動します。
④ 任意のドライブ（ハードディスク等）に“**CI-iCN**”フォルダを作成します。
⑤ 「**CI-iCNサポートソフト**」の**DOS**フォルダ内にある
　・DUOATA16.SYS
　・DUOATACD.SYS
を④で作成した“**CI-iCN**”フォルダへコピーします。

[エクスプローラ]の[表示]→[フォルダオプション]（[オプション]）内の、“ファイルの表示”を“すべてのファイルを表示”にしてください。

⑥ フロッピーディスクドライブから「**CI-iCNサポートソフト**」を抜き、「**Recovery CD-ROM Boot Diskette**」を挿入します。
⑦ ④で作成した“**CI-iCN**”フォルダ内のファイルを「**Recovery CD-ROM Boot Diskette**」のルートフォルダへコピーします。
⑧ 「**Recovery CD-ROM Boot Diskette**」内の**DRVLOAD.BAT**を編集します。
8-1 **DRVLOAD.BAT**を右クリックし、表示されたメニューから［編集］をクリックします。

8-2　DRVLOAD.BATの":OBI" で始まる項目を以下のように書き換えてください。

```
:OBI
rem IBM PCMCIA CD-ROM 20x
@loadhigh %1dynaload %1CARDXTND.SYS >NUL
@loadhigh %1dynaload %1SSCBTI.SYS /numada:2 /ada1skts:2 /ada2skts:2 >NUL
@loadhigh %1dynaload %1CS.SYS >NUL
@loadhigh %1dynaload %1CSALLOC.EXE >NUL
@loadhigh %1dynaload %1CARDID.SYS >NUL
REM @loadhigh %1dynaload %1PCMCD20X.SYS /I:9 /P:260 /D:PCMCD001 >NUL   (REM追加)
@loadhigh %1dynaload %DUOATA16.SYS >NUL                                (1行追加)
@loadhigh %1dynaload %DUOATACD.SYS /D:PCMCD001 >NUL                    (1行追加)
@call %1MSCDEX /D:PCMCD001 /L:Z >NUL
@if errorlevel 1 goto ERROR
@goto exit
:OBI2
rem IBM PCMCIA CD-ROM 400 Series (4x)
```

必ず“:OBI”の項目に追加してください。

⑨ 「**Recovery CD-ROM Boot Diskette**」内の**MSGJP.DAT**を編集します。

9-1　MSGJP.DAT を右クリックし、表示されたメニューから［ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝから開く］をクリックします。

9-2　“この種類のファイルを開く時は、いつもこのアプリケーションを使う”がチェックされていないことを確認し、“このファイルを開くアプリケーション”に**Notepad**を選択し、［**OK**］ボタンを押します。

9-3　MSGJP.DAT内［AMethods］ 項目の、

IBMPCMCD　= "IBM PCMCIA 20x CD-ROM drive"

の行を、

IBMPCMCD　= "I-O DATA CI-iCN"

に書き換えてください。（以下参照）

```
[AMethods]
Internal   = "Panasonic PCMCIA 20X CD-ROM (KXL-808AN)"
Internal2  = "Hot Swap"
IBMCDROM   = "IBM external CD-ROM  (Non-PCMCIA)"
rem
IBMPCMCD   = "I-O DATA CI-iCN"   （書き換え）
Disctec    = "Disctec parallel port CD-ROM"
```

⑩ **Windows 98**を“コンピュータの電源を切れる状態にする”で終了し、パソコンの電源を切ります。

⑪ **CD-ROM**ドライブを接続した本製品(モードスイッチを16bitモードに設定したもの)を、パソコンに接続してください。

⑫ パソコンの電源を入れてください。

以降は「IBM ThinkPad シリーズ Product Recovery CD-ROMの使い方」に従って、作業を進めてください。

◆次のメッセージ

CD-ROM Access Method:
□Panasonic PCMCIA 20X CD-ROM (KXL-808AN)
□I-O DATA CI-iCN
□IBM PCMCIA 4x CD-ROM drive

が画面の左上に表示されましたら、"I-O DATA CI-iCN" の左側にある"□"をクリックして赤いマークをつけ、画面下部の［**Next**］ボタンをクリックしてください。

東芝

DynaBookSS 3380

再セットアップを行なうには「Product Recovery CD-ROM」と、「リカバリＣＤ起動ディスク」が必要です。
「リカバリＣＤ起動ディスク」の作成方法は、下記を参照してください。

-「リカバリCD起動ディスク」の作成方法-

① パソコンに FD 装置を接続します。
② パソコンのPCカードスロットOに、CD-ROMドライブを接続した本製品を接続してください。
③ Windows 98を起動します。
④「Product Recovery CD-ROM Disk1」をセットします。
カスタムリカバリ CD プログラムが起動します。

プログラムが起動しない場合 → CDドライブのルートディレクトリにあるinstall.exe を起動します。

⑤「インストールタイプ」は「標準システムの復元(R)」を選択し、「次へ」をクリックします。
⑥ 警告文を読み、「確認」ボタンをクリックし、「次へ」をクリックします。
⑦ 「リカバリCD起動ディスク」を作成します。
新品のフロッピーディスクをFD装置にセットし、「完了」ボタンをクリックします。
「フロッピーディスクを交換して、OKをクリックして下さい」と表示されたら、2枚目のフロッピーディスクをセットして、[OK]をクリックしてください。
⑧ 「標準システムインストール起動ディスクを作成しました」と表示されたら、[終了]ボタンをクリックしてください。
作成されたフロッピーディスクには、
1枚目：「リカバリCD起動ディスクA」
2枚目：「リカバリCD起動ディスクB」
という名前で呼びます。
間違えないようにフロッピーラベルに記入して、貼ってください。

以上でリカバリCD起動ディスクの作成は完了です。

「リカバリCD起動ディスク」はバックアップをとり、バックアップディスクをお使いください。
バックアップの取り方については、【バックアップの取り方】(106ページ)を参照してください。

-再セットアップ手順-

① パソコンに FD 装置を接続し、Windows 98を起動します。
② 「**CI-iCNサポートソフト**」をFD装置にセットします。
③ 「**CI-iCNサポートソフト**」の**DOS**フォルダ内にある
- **DUOATA16.SYS**
- **DUOATACD.SYS**
- **DUOATAPE.SYS**

を「**CI-iCNサポートソフト**」のルートフォルダへコピーします。
④ 「**CI-iCNサポートソフト**」を取り出し、Windows 98を終了します。
⑤ パソコンのPCカードスロットOにCD-ROMドライブを接続した本製品(スイッチを16bitモードにしたもの)を接続します。
⑥ 「リカバリCD起動ディスクA」をFD装置にセットし、パソコンを起動します。
「カスタム・リカバリCDへようこそ」が表示されます。
表示されるメッセージを読んでから、[F1]キー(OK)を押して次へ進んで下さい。
⑦「標準システムに復元します」と表示されたら、「C」を押します。
⇒ フォーマットが開始されます。
⑧「メーカ名の選択」が表示されたら、「I／Oデータ」の番号を入力し、↵キーを押します。
⑨「機器名の選択」画面で、本製品が一覧に表示されているか確認します。
(a) 本製品が一覧にある場合
一覧から、本製品の番号を入力し、↵キーを押します。
(b) 本製品が一覧にない場合
一覧から、「CDP-AX24/CBIDE」の番号を入力し、↵キーを押します。
あとは画面の指示にしたがって、再セットアップを行ないます。

「インターフェースカードのドライバを複写します！」というメッセージが表示された場合 → CI-iCNサポートソフトをFD装置にセットして、何かキーを押してください。

SONY

VAIO PCG-505, PCG-505X, PCG-505EX, PCG-505G, PCG-505GX, PCG-505R, PCG-505RS, PCG-505RX,PCG-C1

再セットアップを行うには、「**PCCARD用起動ディスク**」が必要です。
また「**PCCARD用起動ディスク**」はバックアップをとり、バックアップディスクをお使いください。
バックアップの取り方については、【バックアップの取り方】（106ページ）を参照してください。

①**Windows 98/95**を起動します。
②フロッピーディスクドライブに「**CI-iCNサポートソフト**」を入れます。
②［マイコンピュータ］→［**3.5**インチ**FD**］→［**DOS**］→［**INSTFD**］を起動します。
④画面の指示に従って、「**PCCARD用起動ディスク**」にデバイスドライバを組み込みます。
⑤ **INSTFD**が終了したら、**MS-DOS**プロンプトウィンドウを閉じます。
⑥［スタート］ボタンを右クリックし、表示されたメニューから［エクスプローラ］をクリックしてください。エクスプローラが起動します。
⑦「**PCCARD用起動ディスク**」内の**CONFIG.SYS**を編集します。

・［エクスプローラ］の［表示］→［フォルダオプション］（［オプション］）内の、“ファイルの表示”を“すべてのファイルを表示”にしてください。
・PCG-505G, PCG-505GX, PCG-505R, PCG-505RS, PCG-505RXはCONFIG.SYSを編集する必要はありません。⑧へお進みください。

7-1　**CONFIG.SYS**を右クリックし、［ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝから開く］をクリックします。
7-2　“この種類のファイルを開く時は、いつもこのアプリケーションを使う”がチェックされていないことを確認し、“このファイルを開くアプリケーション”に**Notepad**を選択し、［**OK**］ボタンを押します。
7-3　**CONFIG.SYS**を以下のように書き換えてください。

《**PCG-505**の場合》

```
REM ●● PRD-150用のドライバ ●●
REM DEVICE=¥CDROM¥CARDMGR.SYS ¥CDROM¥DS436.INI　　（REM追加）
REM DEVICE=¥CDROM¥PRD150.SYS /D:CDROM001 /P:__DSPMGR　　（REM追加）
```

《**PCG-505X,PCG-505EX**の場合》

```
DEVICE=HIMEM.SYS
REM DEVICE=EMM386.EXE RAM　　（REM追加）
DEVICE=BILING.SYS
```

⑧「**PCCARD用起動ディスク**」内の**AUTOEXEC.BAT**を編集します。

> PCG-505はAUTOEXEC.BATを編集する必要はありません。読み飛ばしてください。

8-1　**AUTOEXEC.BAT**を右クリックし、［編集］をクリックします。

8-2　**AUTOEXEC.BAT**を以下のように書き換えてください。

《**PCG-505X,PCG-505EX**の場合》

```
A:¥MSCDEX.EXE /D:ATACD001 /L:G　　（1行目を書き換え）
@ECHO OFF
REM ●● MSCDEX.EXE の行を加えてください ●●
```

《**PCG-505G,PCG-505GX,PCG-505R,PCG-505RS,PCG-505RX**の場合》

```
A:¥DOS¥MSCDEX.EXE /D:ATACD001 /L:G　　（1行目を書き換え）
@echo off
set path=A:¥;A:¥DOS;A:¥SONY
REM ●● MSCDEX.EXE の行を加えてください ●●
```

これで、再セットアップ用の「**PCCARD用起動ディスク**」が作成されました。

> 以降はパソコンの取扱説明書に従って、作業を進めてください。再インストール時は、必ずカード側面のスイッチを16bitモードにしてご使用ください。

VAIO　PCG-505S,PCG-505SX,PCG-Z505D,PCG-Z505DX,PCG-505V, PCG-505V/ABX,PCG-Z505F,PCG-Z505FX,PCG-N505,PCG-N505SR, PCG-N505ES,PCG-N505EL,PCG-Z505JL,PCG-Z505JX,PCG-C1R, PCG-C1S,PCG-C1XE,PCG-C2GPS

再セットアップを行うには「PCCARD用起動ディスク」が必要です。あらかじめ、作成しておいてください。作成方法はパソコンの取扱説明書をご参照ください。
また、「PCCARD用起動ディスク」は、バックアップをとり、バックアップディスクをお使いください。バックアップの取り方については、【バックアップの取り方】（106ページ）を参照してください。

① **Windows** 98 を起動します。
② フロッピーディスクドライブに「**CI-iCNサポートソフト**」を入れます。
③ ［マイコンピュータ］→［3.5インチFD］→［DOS］→［INSTFD］ を起動します。
④ 画面の指示に従って、「**PCCARD用起動ディスク**」にデバイスドライバを組み込みます。
⑤ INSTFD が終了したら、MS-DOSプロンプトウィンドウを閉じます。
⑥ [スタート]ボタンを右クリックし、表示されたメニューから[エクスプローラ]をクリックしてください。エクスプローラが起動します。
⑦「**PCCARD用起動ディスク**」内の AUTOEXEC.BAT を編集します。

[エクスプローラ]の[表示]→[フォルダオプション]（[オプション]）内の、“ファイルの表示”を“すべてのファイルを表示”にしてください。

7-1　AUTOEXEC.BAT を右クリックし、［編集］をクリックします。
7-2　AUTOEXEC.BAT を以下のように書き換えてください。

```
A:¥DOS¥MSCDEX.EXE /D:ATACD001 /L:Q　　（１行目を書き換え）
@echo off
set path=A:¥;A:¥DOS;A:¥SONY
REM ●● MSCDEX.EXE の行を加えてください ●●
```

これで、再セットアップ用の「PCCARD用起動ディスク」が作成されました。

以降はパソコンの取扱説明書に従って、作業を進めてください。再インストール時は、必ずカード側面のスイッチを16bitモードにしてご使用ください。

作業例にない機種

・再セットアップを行うには、パソコンに付属している起動ディスクが必要です。
パソコンに付属している起動ディスクはバックアップをとり、バックアップディスクをお使いください。以降の起動ディスクはバックアップのものです。
バックアップの取り方については、【バックアップの取り方】（106ページ）を参照してください。
・以下はあくまで参考手順です。環境に合わせて作業を行ってください。

Windows 98/95再セットアップディスクを作成するためには、パソコンに付属の起動ディスク内の「**どのファイルのどの部分を書き換える必要があるか**」を知らなくてはなりません。
パソコンの取扱説明書を参照されるか、パソコンメーカーにお問い合わせください。

-手順-

① パソコンの電源を入れます。
② **Windows 98/95**が起動したら、パソコンに「**起動ディスク**」を挿入します。
③ [スタート]→[プログラム]→[アクセサリ]→[メモ帳]を起動します。
④ [ファイル]→[開く]をクリックします。
⑤ 「ファイルの種類」を「すべてのファイル」にします。
⑥ 変更するファイルを開きます。（例：CONFIG.SYS）
（変更するファイルは、パソコンの取扱説明書を参照されるか、
パソコンメーカーにお問い合わせください。）

《参考：開きたいファイルが表示されていない場合》
1) ［マイコンピュータ］をダブルクリックします。
2) ［表示］の中の［フォルダオプション］をクリックします。
3) ［表示］タブをクリックします。
4) 「登録されているファイルの拡張子は表示しない」のチェックをはずします。
5) 「ファイルの表示」で「すべてのファイルを表示する」を選択します。
6) ［OK］ボタンをクリックします。
7) 手順④から作業を再開します。

⑦ 以下の２行を必要な場所に追加します。
わからない場合は、最終行に追加します。

```
DEVICE=DUOATA16.SYS
DEVICE=DUOATACD.SYS /D:ATACD001
```

⑧ [ファイル]→[上書き保存]をクリックします。
⑨ **MSCDEX.EXE**が記述されているファイル（例：AUTOEXEC.BAT）を④～⑥を参考にして開きます。（ファイル名については、パソコンの取扱説明書およびパソコンメーカーへお問い合わせください。）
⑩ **MSCDEX.EXE**の記述行のオプション（**/D:xxx**など）を「**/D:ATACD001**」に書き換えます。また、必要に応じて「**/L:x**」（**x**はドライブ番号）のオプションでCD-ROMドライブのドライブ名を指定します。
⑪ [ファイル]→[上書き保存]をクリックします。
⑫ [メモ帳]を閉じます。
⑬ 起動ディスクを抜き、「**CI-iCNサポートソフト**」を挿入します。
⑭ [スタート]ボタンを右クリックし、表示されたメニューから[エクスプローラ]をクリックします。
⑮ 任意のドライブ（ハードディスク等）に“**CI-iCN**”フォルダを作成します。
⑯ 「**CI-iCNサポートソフト**」内の**DOS**フォルダ内にある

・DUOATA16.SYS
・DUOATACD.SYS

を⑮で作成した“**CI-iCN**”フォルダへコピーします。
⑰ フロッピーディスクドライブから「**CI-iCNサポートソフト**」を抜き、**起動ディスク**を挿入します。
⑱ ⑮で作成した“**CI-iCN**”フォルダを開き、中にあるファイルを［**3.5インチFD(A:)**］アイコン上へコピーします。
これで再セットアップ用**起動ディスク**にCD-ROMおよび本製品用ドライバが追加されました。
⑲ **CD-ROM**ドライブを接続した本製品（動作モードを**16bit**モードに設定）を、パソコンに接続してください。

以降はパソコンの取扱説明書をご覧になり、再セットアップを行ってください。

起動ディスクを使った再セットアップが始まらなかった場合は、以下の作業を行ってから、もう一度再セットアップを行ってください。

① 起動ディスクから起動し、「Starting Windows 98(95)」と表示されたときに［F8］キーを押します。
⇒メニューが表示されます。
※ ［F8］キーを押してもメニューが出ない場合は、パソコンメーカーに「最初に読み込まれるファイル（Config.sys, Autoexec.bat等）を１行ずつ確認しながら、起動する方法をお問い合わせください。

② メニューから「STEP-BY-STEP」を選択します。
⇒最初に読み込まれるファイル（ Config.sys, Autoexec.batなど）を１行ずつ確認しながら、起動できます。

③ 「DUOATA16.SYS」の行で「DUOATA16:カードサービスが常駐していません」と表示される場合は、次に進んでください。それ以外のエラーが表示されるか何も表示されなかった場合は、以下の内容を弊社サポートセンターまでご連絡ください。
・変更したファイルの全ての内容
・起動した際のエラーメッセージ

④ 変更したファイルの「DUOATA16.SYS」を「DUOATAPE.SYS」（P34⑦）に書き換えます。

⑤ **起動ディスク**に、「**CI-iCNサポートソフト**」から「DUOATAPE.SYS」をコピーします。
（「DUOATAPE.SYS」が入らなかった場合は、「DUOATA16.SYS」を削除してからもう一度、コピーしなおしてください。）

ドライバの更新

ここでは、CBIDEⅡシリーズをお使いになっていた場合や、本製品のドライバを更新する場合は、インストールされているサポートソフトを一度削除後、本製品の（あるいは、弊社ホームページから入手した最新の）サポートソフトをインストールしてください。
操作はお使いのOSによって異なりますので、対応している個所をお読みください。

●Windows XP/2000/Me/98/95の場合

次ページ【Windows XP/2000/Me/98/95での削除】を参照して、インストールされているサポートソフトを削除します。

※【サポートソフトの削除】(次ページ)の手順でCBIDEⅡシリーズのサポートソフトも削除できます。

削除後、16ページで本製品の（最新の）サポートソフトをインストールしてください。

●Windows NT 4.0の場合

138ページ【Windows NT 4.0での削除】を参照して、インストールされているサポートソフトを削除します。

（CBIDEⅡシリーズをお使いになっていた場合は、手順**3** の「CI-iCN」は「CBIDEⅡ Series」となります。）

削除後、34ページで本製品の（最新の）サポートソフトをインストールしてください。

●Windows 3.1,MS-DOS（PC DOS）の場合

特別な作業は必要はありません。そのまま46ページへお進みください。

サポートソフトの削除

「CI-iCN サポートソフト」を再インストールする場合は、インストールされた情報を削除（アンインストール）する必要があります。

・Windows XP/2000/Me/98/95 の場合　→　以下参照
・Windows NT 4.0 の場合　→　138 ページ参照

Windows XP/2000/Me/98/95での削除

1 本製品を取り外します。

⇒本製品を PC カードスロットに挿入している場合は、取り外してください。取り外す方法は、【ドライブの電源を切る】（28 ページ）をご覧ください。

2 Windowsを起動します。

パソコンの電源を入れて、Windows を起動します。

3 「CI-iCN サポートソフト」を挿入します。

4 サポートソフト内の［DDSETUP］アイコンをダブルクリックします。

［マイコンピュータ］をダブルクリック（Windows XP の場合は[スタート]→[マイコンピュータ]をクリック）します。
［3.5 インチ FD］→［DDSETUP］の順にダブルクリックします。

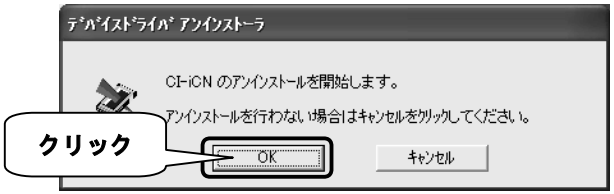
※画面は Windows XP を例にしています。



5 **[アンインストール]を選択し、[OK]ボタンをクリックします。**



6 **[OK]ボタンをクリックします。**



7 **[OK]ボタンをクリックします。**



8 **[はい]ボタンをクリック後、「サポートソフト」ディスクを取り出します。**

［はい］ボタンをクリック後、自動で Windows を再起動します。



9 **本製品を抜いて、パソコンを再起動します。**

次回のパソコン起動時より、本製品が使えなくなります。

Windows NT 4.0での削除

1 **[SCSI アダプタ] アイコンをダブルクリックします。**
［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］内の［SCSI アダプタ］アイコンをダブルクリックします。

2 **[ドライバ] タブをクリックします。**

3 **[CI-iCN DuoATA Card(16Bit Mode)] を選択します。**

4 **[削除] ボタンをクリックします。**



5 **[はい] ボタンをクリックします。**



6 **[OK] ボタンをクリックし、「SCSI アダプタ」を閉じます**

次回のパソコン起動時より、本製品が使えなくなります。

用語解説

本書内の用語を説明します。

ACPI(Advanced Configuration and Power Interface)［エーシーピーアイ］

Intel、Microsoft、東芝、COMPAQ、Phoenixが共同で開発し、発表されたPCや周辺機器の電力管理を行なうための規格です。
ACPIは、電力管理をOS側で一元管理します。ACPI対応であれば、接続した周辺機器の電力まで、OSで管理することができます。

ハードウェア仕様

本製品の仕様を説明します。

●CI-iCN

カード仕様	PCカード規格Type Ⅱ 準拠	
モード	CardBusモード	16bitモード
選択可能I/Oアドレス	任意の連続した32バイト	180h～187h,386h～387h 190h～197h,396h～397h 1A0h～1A7h,3A6h～3A7h
占有メモリ	任意の連続した 4Kバイトメモリ空間	任意の連続した 4Kバイトメモリ空間※
選択可能IRQ	任意の割り込み	
入力電源	+3.3V±5%	+5V±5%
消費電流	MAX 40mA	MAX 10mA
使用温度範囲	0～+55℃(パソコンの動作する温度範囲内であること)	
外形寸法	85.6 X 54.0 X 5.0 mm	
質量	30g	

※ 32ビットメモリマップ転送を使用する場合は、128Kバイトのメモリ空間を使用します。

お問い合わせ

本製品に関するお問い合わせはサポートセンターで受け付けています。

① まず、弊社ホームページをご確認ください。

本書【困ったときには】で解決できない場合は、サポートWebページ内の「製品Q&A、Newsその他」もご覧ください。過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。こちらもご参考ください。

http://www.iodata.jp/support/

製品Q&A
Newsなど

添付のサポートソフトをバージョンアップすることで解決できる場合があります。下記の弊社サポート・ライブラリから最新のサポートソフトをダウンロードしてお試しください。

http://www.iodata.jp/lib/

最新
サポートソフト

② それでも解決できない場合は…

住所： 〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第２ビル
株式会社アイ・オー・データ機器 サポートセンター

電話： 本社…**076-260-3688** 東京…**03-3254-1095**
※受付時間 9:30～19:00 月～金曜日（祝祭日を除く）

FAX： 本社…**076-260-3360** 東京…**03-3254-9055**

インターネット： http://www.iodata.jp/support/

・お知らせいただく事項について

サポートセンターへお問い合わせいただく際は、事前に以下の事項をご用意ください。

1. ご使用の弊社製品名
2. ご使用のパソコン本体の型番
3. ご使用のOSとサポートソフトのバージョン
4. トラブルが起こった状態、トラブルの内容、現在の状態（画面の状態やエラーメッセージなどの内容）

修理について

修理の前に

故障かな？と思ったときは、
①本書をもう一度ご覧いただき、設定などをご確認ください。
②弊社サポートセンターへお問い合わせください。
（前ページ【お問い合わせ】をご覧ください）

故障と判断された場合は、下記内容を参照して、本製品をお送りください。

修理について

本製品の修理をご依頼される場合は、以下の事項をご確認ください。

●お客様が貼られたシールなどについて

修理の際に、製品ごと取り替えることがあります。
その際、表面に貼られているシールなどは失われますので、ご了承ください。

●修理金額について

・保証期間中は、無料にて修理いたします。
ただし、ハードウェア保証書に記載されている「保証規定」に該当する場合は、有料となります。
※保証期間については、ハードウェア保証書をご覧ください。

・保証期間が終了した場合は、有料にて修理いたします。
※弊社が販売終了してから一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。

・お送りいただいた後、有料修理となった場合のみ、往復はがきにて修理金額をご案内いたします。
修理するかをご検討の上、検討結果を記入してご返送ください。
（ご依頼時に FAX 番号をお知らせいただければ、修理金額を FAX にて連絡させていただきます。）

修理品の依頼

本製品の修理をご依頼される場合は、以下を行ってください。

●メモに控え、お手元に置いてください
お送りいただく製品の製品名、シリアル番号（製品に貼付されています）、お送りいただいた日時をメモに控え、お手元に置いてください。

●これらを用意してください
・必要事項を記入した本製品のハードウェア保証書（コピー不可）
※ただし、保証期間が終了した場合は、必要ありません。
・下の内容を書いたもの
返送先［住所/氏名/(あれば)FAX番号］, 日中にご連絡できるお電話番号,
ご使用環境（機器構成、OSなど）, 故障状況（どうなったか）

●修理品を梱包してください
・上で用意した物を修理品と一緒に梱包してください。
・輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材にて梱包してください。
※ご購入時の箱・梱包材がない場合は、厳重に梱包してください。

●修理をご依頼ください
・修理は下の送付先までお送りくださいますようお願いいたします。
※ 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様ご負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。
・送付の際は、紛失等を避けるため、宅配便か書留郵便小包でお送りください。

送付先　〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器　修理センター　宛

修理品の返送

・修理品到着後、通常約１週間ほどで弊社より返送できます。
※ただし、有料の場合や、修理内容によっては、時間がかかる場合があります。

CI-iCN 取扱説明書
2003.03.31　72303-02
発 行　株式会社アイ・オー・データ機器
〒920-8512 石川県金沢市桜田町3丁目10番地

© 2000-2003 I-O DATA DEVICE,INC. All rights reserved.
本製品および本書は著作権法により保護されておりますので
無断で複写、複製、転載、改変することは禁じられています。